

# 林地区遺跡群

水源地域整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第1集

第1分冊

上原Ⅱ遺跡  
上原Ⅲ遺跡  
中棚Ⅰ遺跡

2015

群馬県吾妻郡長野原町教育委員会





1. 上原II遺跡調査区遠景（北上空から）



2. 上原III遺跡調査区遠景（北東上空から）

口絵 2



1. 中棚Ⅰ遺跡調査区遠景（西上空から）



2. 中棚Ⅰ遺跡調査区遠景（南上空から）



1. 上原I遺跡II 2・3区調査区遠景（東上空から）



2. 上原IV遺跡IV 3・4区調査区遠景（北東上空から）

口絵 4



1. 林中原Ⅰ遺跡 XI 1・2区調査区遠景（東上空から）



2. 林中原Ⅰ遺跡 XI 1～4区調査区遠景（南上空から）



中棚 I 遺跡  
SI04 墨書土器出土状況



中棚 I 遺跡  
墨書土器



上原 I 遺跡 II  
21号ピット（埋納遺構）遺物出土状況



上原 I 遺跡 II  
SK61 遺物出土状況



上原Ⅲ遺跡  
SH12 墨書き土器出土状況



上原Ⅲ遺跡  
墨書き土器

上原Ⅱ遺跡



SK75 出土遺物



SK42 出土遺物



SK55 出土遺物

縄文時代中期前葉出土遺物

上原 I 遺跡 II



縄文時代前期初頭出土遺物 (SI23)



弥生時代前期出土遺物 (SK61)

口絵 8

上原 I 遺跡 II



古墳時代前期出土遺物 (SI10)

上原 IV 遺跡 IV



古墳時代後期出土遺物 (SI07)

## 序 文

長野原町は、群馬県の北西部に位置し、「八ッ場ダムの建設」に伴う生活再建事業の進行とともに、新しいまちづくりを進めています。

長野原町内には、縄文時代中期後半の拠点集落である長野原一本松遺跡・横壁中村遺跡や天明3年の浅間山の大爆発により発生した泥流被災状況を伝える東宮遺跡・小林家屋敷跡に代表されるように、多数の貴重な遺跡の存在が知られています。

教育委員会では、文化財保護事業の一環として、町の貴重な文化遺産である遺跡を保護するとともに、失われていく遺跡の記録保存に努めています。

今回報告する林地区遺跡群発掘調査は町営林土地改良事業に伴い、記録保存を目的として実施されたものです。林地区遺跡群は事業地内の7つの遺跡からなります。この遺跡群の調査は発掘作業及び整理作業を3年、報告書作成作業を1年の合計4年計画で実施されました。

本調査はこれまで点や線の調査がほとんどであった当地区を面的に調査したもので、空白時期を埋める遺構の発見が相次ぎ、各遺跡でそれぞれ特色ある成果を上げることができました。成果の詳細は本編に譲りますが、本書が町民の皆様をはじめ多くの方々に活用され、郷土長野原の歩んできた道のりを知る一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書発刊にあたり、多大なるご指導・ご協力をいただきました関係機関および関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

平成27年3月

長野原町教育委員会

教育長職務代行者

教育課長 矢野 今朝治



## 例　言

1. 本書は、群馬県吾妻郡長野原町大字林に所在する、上原Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、林中原Ⅰ・Ⅱ、中棚Ⅰ遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本報告書の作成にあたり、上記の7遺跡を合わせて便宜上、林地区遺跡群とした。
3. 調査は長野原町営林土地改良事業にともなう発掘調査として、長野原町の委託を受けた長野原町教育委員会が実施した。
4. 発掘・整理調査は富田孝彦（長野原町教育委員会）の指導・監修のもと、委託を受けた歴史の杜の高林真人を中心に行った。発掘調査の分担は以下のとおりである。

上原Ⅱ遺跡：向出博之　上原Ⅲ遺跡：高林・水谷貴之・村上章義・小宮山達雄　中棚Ⅰ遺跡：高林  
上原Ⅰ遺跡Ⅱ：高林　上原Ⅳ遺跡Ⅳ：高林　林中原Ⅰ遺跡ⅩI：高林・水谷・向出  
林中原Ⅱ遺跡X：向出
5. 本書は、第1分冊、第2分冊、第3分冊で構成した。各遺跡及び自然科学分析、考察、総括、写真図版で編立てを行い、序説を加えて下記の様に構成した。

第1分冊 「序説」「第1編 上原Ⅱ遺跡」「第2編 上原Ⅲ遺跡」「第3編 中棚Ⅰ遺跡」  
第2分冊 「第4編 上原Ⅰ遺跡Ⅱ」「第5編 上原Ⅳ遺跡Ⅳ」「第6編 林中原Ⅰ遺跡ⅩI」「第7編 林中原Ⅱ遺跡X」  
第3分冊 「第8編 自然科学分析」「第9編 考察・総括」「写真図版編」
6. 発掘調査から調査報告書作成に至るまでの調査事業費は、水源地域対策特別措置法第12条による負担金が充てられた。
7. 調査は発掘調査を平成23年5月11日から平成25年8月29日まで、整理調査及び報告書作成を発掘調査と並行しながら平成23年9月15日から平成27年3月25日までの期間で実施した。
8. 各遺跡の出土遺物ならびに図面・写真は全て長野原町教育委員会が保管している。
9. 整理調査の各作業分担は以下のとおりである。

監修：富田 編集：高林・向出  
執筆：富田（序説第1章第1・2節）／高林（序説第1章第3節、第2～6編、第8編第2章第1節、第9編第3章、第4章第1・4・5節、第6章）／水谷（第9編第4章第2節、第5章第1節）／高林・水谷（第9編第4章第3節）／小宮山（序説第2章、第9編第2章）／向出（第1編、第7編、第9編第1章・第5章第2節）  
遺構・遺物写真撮影：高林・水谷・村上・向出  
実測指示：高林（古墳時代以降の遺物）・向出（縄文・弥生・陶磁器・石器の一部）  
遺物実測・拓本・トレース：篠原みつ子・黒岩由美子・市村富美江・篠原信子・深井美紀・石井なみ枝・菅谷聰・手塚恵美子・生方秀子  
図版および写真図版作成：篠原（信）・深井・菅谷・本多真梨子・手塚・生方
10. 本文中の図番号・表番号は分冊ごとに1から付した。そのため序説で各遺跡の図番号を使用する際には第1分冊分を1—第○図△、第2分冊分を2—第○図△と表記した。
11. 本書の遺跡名は調査が数次にわたっている場合は、それぞれを識別するために遺跡名の最後にローマ数字を表記してある。同一遺跡内の別地点と解釈していただきたい。
- 例) 上原Ⅰ遺跡Ⅱ（遺跡名）（第2次）
12. 発掘・整理調査の中で、一部の作業を委託した。

表土掘削・埋め戻し：東光建設株式会社・吉澤建設株式会社  
測量・空中写真撮影：㈱測研  
石器実測：文化財整理こうけん

- 炭化材分析：㈱パレオ・ラボ（第8編第1章）
- 鍛治関連遺物分析：日鉄住金テクノロジー㈱ 八幡事務所 T A C センター（第8編第2章第2節）
- 骨分析：生物考古学研究所（第8編第3章）
13. 灰釉陶器は神谷佳明氏（公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団）にはば全点の遺物を実見して窓式を同定していただき、年代観をご教示いただいた。
14. 鍛治関連遺物は 笹澤泰史氏（群馬県教育委員会）に遺物を実見していただき、分類・分析資料の選定・整理作業方法についてご教示いただいた。
15. 第9編考察の執筆にあたり、第1章第2節では谷藤保彦氏（公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団）、第1章第3節では山口逸弘氏（公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団）・鈴木徳雄氏（本庄市教育委員会生涯学習課）、第4章第1節では中沢悟氏（公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団）にご教示いただいた。
16. 発掘調査、整理調査及び報告書作成にあたり、次の方々・団体から非常に多くの御指導・御助言を賜った。記して感謝申し上げます。（五十音順敬称略）
- 阿久澤智一・淺間陽・麻生敏隆・飯森康広・石川日出志・伊藤純一・大木紳一郎・大塚昌彦  
小川卓也・小野和之・笠井崇吉・神谷佳明・川田強・黒澤照弘・小林高・坂口一・笹澤泰史  
鈴木徳男・岡根慎二・高橋清文・谷藤保彦・中沢悟・日沖剛史・福田貫之・藤巻幸男・松田哲  
水田稔・宮本久子・矢島博文・山口逸弘・綿田弘実
- 群馬県吾妻県民局中之条土木事務所・群馬県教育委員会・群馬県土地改良事業団体联合会  
群馬県八ッ場ダム水源地域対策事務所・公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
国土交通省八ッ場ダム工事事務所・長野原町役場産業課・長野原町役場ダム対策課  
林地区土地改良事業推進協議会
17. 本遺跡群に関して、本報告以前にその概要が収録・公表されたものは下記の書籍である。報告内容は、本報告書が優先である。
- 『群馬地域文化』 第43号 一般財団法人群馬地域文化振興会 2014
18. 長野原町教育委員会の調査体制は以下のとおりである。
- 調査主体 長野原町教育委員会  
平成23年4月～平成26年3月
- 調査組織 教育長 黒岩文夫  
教育課長 市村敏  
社会教育GL 白石光男  
〃 副GL 富田孝彦
- 平成26年4月～平成26年5月
- 調査組織 教育長 黒岩文夫（～平成26年4月29日）  
教育課長 市村敏（平成26年4月30日～平成26年5月31日 教育長職務代表者兼務）  
教育課補佐 白石光男（平成26年4月1日から組織改編で教育課補佐）  
文化財係長 富田孝彦（平成26年4月1日から組織改編で文化財係長）
- 平成26年6月～
- 調査組織 教育課長 矢野今朝治（平成26年6月1日～教育長職務代行者兼務）  
教育課補佐 白石光男  
文化財係長 富田孝彦

## 凡 例

1. 本書で使用した地図は 1:2500「長野原都市計画図」(長野原町 1994)、1:25000「長野原」(国土地理院 2009)、1:200000「宇都宮」(国土地理院 2011)・「長野」(国土地理院 2012)・「高田」(国土地理院 2013)・「日光」(国土地理院 2013)である。

2. 採図の方位は真北を示す。

3. 採図の縮尺については下記のとおりであり、各採図中に示してある。

遺構：鍛冶工房跡・堅穴住居跡・堅穴状遺構・掘立柱建物跡・柱列・不明遺構・遺物集中…1/60

カマド・炉・焼土遺構・土壙墓・ピット…1/30

土坑・遺構外遺物出土状況…1/30・1/60

陥し穴・ヤックラ…1/40

平坦面(郭)…1/50・1/100

溝・自然流路…1/80・1/200

水場遺構…1/100

旧河道…1/100・1/200・1/600

湿地跡…1/100・1/300

埋没谷…1/100・1/500

谷地形…1/200

遺物：復元土器…1/4 を基本としたが、上原Ⅰ遺跡 II SK61 の弥生土器は 1/3 で掲載した。

土器片…1/3 を基本としたが、上原Ⅱ遺跡 2 号遺物集中 -15、上原Ⅲ遺跡遺構外 -77、中棚Ⅰ遺跡

SI03-33・SK17- 9 は 1/4 で掲載した。

礫石器類・打製石斧・磨製石斧・剥片石器類(スクレイバー・石匙)・石棒・石皿・置砥・五輪塔・石臼・

板碑・鉄滓・羽口…1/3

鉄製品・青銅製品・紡錘車・手持砥・硯・土錘・土製円板・大珠…1/2

剥片石器類(石鎚・石錐・搔器・石核・剥片)・碁石・錢貨・泥面子…1/1

なお、遺物出土状況図に示した遺物実測図の縮尺は、任意である。

4. 遺構の略号については以下のとおりである。

SA : 柱列 SB : 掘立柱建物跡 SD : 溝跡・自然流路 SI : 堅穴住居跡・堅穴状遺構

SK : 土坑 SX : 不明遺構 P : ピット

5. 調査区全体図(1/600)(林中原Ⅱ遺跡 X 3 ~ 5 区調査区を除く)には、鍛冶工房跡・堅穴住居跡・堅穴状遺構・掘立柱建物跡・陥し穴の遺構名を記載した。

6. 平安時代の堅穴住居跡の規模は、「矢田遺跡Ⅶ」((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1997) の第 7 章第 1 節の分類を参照している。

7. 住居などで建て替えや拡張が行われ、同じ遺構と見なしたものの中にカマドや貯蔵穴が 2 つ見られた場合、新しいものを A、古いものを B とした。

8. 採図に示した遺物の詳細は、観察表に記してある。観察表における復元土器の法量は左側が器高、中央が口径、右側が底径を表す。

9. 本書における遺構・遺物の計測値について、( ) は現存値、< > は推定値を示す。

10. 遺物観察表において、コの字状口縁甕はコ字口縁甕と略して記載した。

11. 遺物観察表中の遺物出土位置で①、②と記されたものは、2 面調査における 1 面出土(①)、2 面出土(②)を示すものである。

12. 本文並びに土層注記で使用したテフラの略号は以下のとおりである。

As-YPk・YPk : 浅間 - 草津黄褐色軽石 As-Kk : 浅間 - 鹿川テフラ As-A : 浅間 A 軽石

13. 土層や土器の色調に関しては「新版標準土色帖 2001年版」(編・著 小山正忠・竹原秀雄、監修 農林水産省農林水産技術会議事務局、色票監修 財団法人日本色彩研究所)の色名を参考にした。土器の色調は観察表において、外面／内面の順で記し、同一の色調の場合は一つで表現した。

14. 掘図中のスクリートーン・記号は以下のとおりである。

遺構平面図・断面図

燃土範囲

粘土範囲

As-Kk範囲

炭化物範囲

柱痕

地山

石

● 土器・陶磁器類 △ 石器・石製品類 □ 金属製品 ◇ その他

遺物実測図

土器

龍目

黒色処理・油煙・炭化物・スス・コゲ

朱墨

灰釉

石器・石製品

磨り面

礎石炭化物付着範囲

礎石変色範囲

鍛冶津・鉄塊系遺物

炉床土・酸化土砂

鉄分

粘土質溶解物

空洞部

羽口

淬化

被熱範囲

※土器の欠損部に関しては点描で表現しているが、土師器・須恵器などは割れ口を描かないものもある。

断面塗りつぶしは須恵器・灰釉陶器を示している。

断面網かけは繊維の含有を示している。

## 第1分冊 目 次

口絵

序文

例言・凡例

目次

### 序説

#### 第1章 調査概要

第1節 調査に至る経緯	3
第2節 試掘調査の成果	3
第3節 調査の方法	14
第2章 遺跡の立地と環境	
第1節 遺跡の位置	18
第2節 周辺の遺跡	18

### 第1編 上原II遺跡

第1章 既往の調査	35
第2章 調査の経過	35
第3章 基本層序	35
第4章 検出された遺構と遺物	
第1節 遺跡の概要	37
第2節 縄文時代の遺構と遺物	
(1) 積穴状遺構	42
(2) 燃土遺構	51
(3) 土坑	52
(4) 不明遺構	77
(5) 遺物集中	81
第3節 平安時代の遺構と遺物	
(1) 陥し穴	90
第4節 その他の遺構と遺物	
(1) 土坑	92
(2) ピット	93
第5節 遺構外出土遺物	96
第5章 まとめ	101
遺物観察表	

### 第2編 上原III遺跡

第1章 既往の調査	117
第2章 調査の経過	117
第3章 基本層序	117
第4章 検出された遺構と遺物	
第1節 遺跡の概要	119
第2節 弥生時代の遺構と遺物	128
第3節 平安時代の遺構と遺物	
(1) 鎌冶工房跡	129
(2) 積穴住居跡	145
(3) 積穴状遺構	193
(4) 燃土遺構	194
(5) 陥し穴	199
(6) 土坑	223

第4節 近世の遺構と遺物	
(1) 土壌墓	232
(2) 自然流路	232
第5節 その他の遺構と遺物	
(1) 土坑	239
(2) ピット	292
第6節 遺構外出土遺物	293
第5章 まとめ	300
遺物観察表	

### 第3編 中棚 I 遺跡

第1章 既往の調査	319
第2章 調査の経過	319
第3章 基本層序	319
第4章 検出された遺構と遺物	
第1節 遺跡の概要	321
第2節 縄文時代の遺構と遺物	
(1) 土坑	322
第3節 平安時代の遺構と遺物	
(1) 積穴住居跡	328
(2) 土坑	362
第4節 その他の遺構と遺物	
(1) 土坑	363
(2) 濡地跡	367
(3) ピット	370
第5節 遺構外出土遺物	370
第5章 まとめ	377
遺物観察表	

報告書抄録

## 挿 図 目 次

序説		
第1図 林地区試掘確認調査トレーン位置図 (1/6,500) .....	4	
第2図 試掘出土遺物実測図① (1/3・1/4) .....	6	
第3図 試掘出土遺物実測図② (1/3・1/4) .....	7	
第4図 試掘出土遺物実測図③ (1/3) .....	8	
第5図 試掘出土遺物実測図④ (1/3) .....	9	
第6図 試掘出土遺物実測図⑤ (1/3・1/4) .....	10	
第7図 「地区」(大グリッド)設定図 (1/25,000) .....	15	
第8図 中グリッド・小グリッド設定図 .....	15	
第9図 道路の位置と周辺の遺跡 (広域・1/600,000) .....	19	
第10図 道路の位置と周辺の遺跡 (1/25,000) .....	25	
第11図 道路周辺の河岸段丘面分布図 (1/25,000) .....	28	
上原Ⅱ遺跡		
第12図 調査区位置図 (1/2,500) .....	36	
第13図 基本土層柱状図 (1/20) .....	37	
第14図 第1面調査区全体図 (1/600) .....	38	
第15図 第2面調査区全体図 (1/600) .....	39	
第16図 第1面調査区分割図① (1/300) .....	40	
第17図 第1面調査区分割図② (1/300) .....	41	
第18図 第2面調査区分割図 (1/300) .....	41	
第19図 SI01 実測図 (1/60) .....	42	
第20図 SI01 出土遺物実測図 (1/4) .....	43	
第21図 SI02 実測図 (1/60) .....	44	
第22図 SI02 遺物出土状況図 (1/60) .....	45	
第23図 SI02 出土遺物実測図① (1/3・1/4) .....	46	
第24図 SI02 出土遺物実測図② (1/3) .....	47	
第25図 SI02 出土遺物実測図③ (1/1・1/3) .....	48	
第26図 1・2号焼土遺構実測図 (1/30) .....	49	
第27図 3～5号焼土遺構実測図 (1/30) .....	50	
第28図 織文時代焼土遺構出土遺物実測図 (1/3) .....	51	
第29図 SK04～06・08～10実測図 (1/30) .....	54	
第30図 SK11・12実測図 (1/30) .....	55	
第31図 SK21・22実測図 (1/30) .....	56	
第32図 SK23～26実測図 (1/30) .....	58	
第33図 SK34・35実測図 (1/30) .....	59	
第34図 SK37～40・42実測図 (1/30) .....	61	
第35図 SK43・46・49～51実測図 (1/30) .....	63	
第36図 SK55・56・59実測図 (1/30) .....	64	
第37図 SK61実測図 (1/30) .....	65	
第38図 SK62・63実測図 (1/30) .....	66	
第39図 SK64～66実測図 (1/30) .....	68	
第40図 SK67～71実測図 (1/30) .....	70	
第41図 SK73～76実測図 (1/30) .....	72	
第42図 織文時代土坑出土遺物実測図① (1/3・1/4) .....	73	
第43図 織文時代土坑出土遺物実測図② (1/1・1/2・1/3・1/4) .....	74	
第44図 織文時代土坑出土遺物実測図③ (1/3・1/4) .....	75	
第45図 織文時代土坑出土遺物実測図④ (1/3・1/4) .....	76	
第46図 織文時代土坑出土遺物実測図⑤ (1/3・1/4) .....	77	
第47図 SX01 実測図 (1/60) .....	78	
第48図 SX01 出土遺物実測図 (1/1・1/3・1/4) .....	79	
第49図 1号遺物集中遺物出土状況図① (1/60) .....	80	
第50図 1号遺物集中遺物出土状況図② (1/60) .....	81	
第51図 1号遺物集中出土遺物実測図① (1/4) .....	82	
第52図 1号遺物集中出土遺物実測図② (1/4) .....	83	
第53図 1号遺物集中出土遺物実測図③ (1/3・1/4) .....	84	
第54図 1号遺物集中出土遺物実測図④ (1/1・1/3) .....	85	
第55図 1号遺物集中出土遺物実測図⑤ (1/3) .....	86	
第56図 2号遺物集中遺物出土状況図 (1/60) .....	87	
第57図 2号遺物集中出土遺物実測図① (1/3・1/4) .....	88	
第58図 2号遺物集中出土遺物実測図② (1/3・1/4) .....	89	
第59図 2号遺物集中出土遺物実測図③ (1/1・1/3) .....	90	
第60図 SK52 実測図 (1/40) .....	91	
第61図 SK53・54実測図 (1/40) .....	92	
第62図 SK32 実測図 (1/30) .....	93	
第63図 SK36 実測図 (1/30) .....	94	
第64図 SK44・57・58実測図 (1/30) .....	95	
第65図 SK60 実測図 (1/30) .....	96	
第66図 その他の時代土坑出土遺物実測図 (1/3) .....	96	
第67図 遺構外出土遺物実測図① (1/3・1/4) .....	97	
第68図 遺構外出土遺物実測図② (1/3・1/4) .....	98	
第69図 遺構外出土遺物実測図③ (1/3) .....	99	

第 70 図	遺構外出土遺物実測図④ (1/1・1/3・1/4)	100
上原Ⅲ遺跡		
第 71 図	調査区位置図 (1/2,500)	118
第 72 図	基本土層状図 (1/20)	119
第 73 図	調査区全体図 (1/1,000)	120
第 74 図	1 区調査区全体図 (1/600)	121
第 75 図	2 区調査区全体図 (1/600)	122
第 76 図	1 区調査区分割図① (1/300)	123
第 77 図	1 区調査区分割図② (1/300)	124
第 78 図	1 区調査区分割図③ (1/300)	125
第 79 図	2 区調査区分割図① (1/300)	126
第 80 図	2 区調査区分割図② (1/300)	127
第 81 図	SK155 実測図 (1/30)・弥生時代土坑出土 遺物実測図 (1/4)	128
第 82 図	SI12 実測図① (1/60)	130
第 83 図	SI12 実測図② (1/60)	131
第 84 図	SI12 実測図③ (1/60)	132
第 85 図	SI12 挖り方実測図 (1/60)	133
第 86 図	SI12 カマド・カマド掘り方実測図 (1/30)	134
第 87 図	SI12 遺物出土状況図 (1/60)	135
第 88 図	SI12 犬治関連遺物出土状況図 (1/60)	136
第 89 図	SI12・焼土遺構周辺犬治関連遺物構成図	137
第 90 図	SI12 出土粒状率・鍛造片分布図	138
第 91 図	SI12 犬治工房 出土鍛造片・粒状率計測表	139
第 92 図	SI12 犬治工房 犬治関連遺物重量一覧表・ 割合表	139
第 93 図	SI12 出土遺物実測図① (1/4)	140
第 94 図	SI12 出土遺物実測図② (1/2・1/3・1/3)	141
第 95 図	SI12 出土遺物実測図③ (1/3)	142
第 96 図	SI12 出土遺物実測図④ (1/3)	143
第 97 図	SI12 出土遺物実測図⑤ (1/3)	144
第 98 図	SI12 出土遺物実測図⑥ (1/3)	145
第 99 図	SI01 実測図・掘り方 (1/60)・ カマド掘り方実測図 (1/30)	146
第 100 図	SI01 出土遺物実測図 (1/3・1/4)	147
第 101 図	SI03・掘り方実測図 (1/60)	148
第 102 図	SI04 実測図 (1/60)	149
第 103 図	SI04 挖り方実測図 (1/60)	150
第 104 図	SI04 遺物出土状況図 (1/60)	151
第 105 図	SI04 カマド・カマド掘り方実測図 (1/30)	152
第 106 図	SI04 出土遺物実測図 (1/4)	153
第 107 図	SI05 実測図 (1/60)	154
第 108 図	SI05 挖り方実測図 (1/60)	155
第 109 図	SI05 カマド・カマド掘り方実測図 (1/30)	156
第 110 図	SI05 遺物出土状況図 (1/60)	157
第 111 図	SI05 出土遺物実測図 (1/3・1/4)	158
第 112 図	SI08 実測図 (1/60)	160
第 113 図	SI08 カマド・カマド掘り方実測図 (1/30)・ 遺物出土状況図 (1/60)	161
第 114 図	SI08 出土遺物実測図 (1/3・1/4)	162
第 115 図	SI09 実測図 (1/60)	163
第 116 図	SI09 カマド・カマド掘り方実測図 (1/30)	164
第 117 図	SI09 遺物出土状況図 (1/60)	165
第 118 図	SI09 出土遺物実測図 (1/3・1/4)	165
第 119 図	SI10 実測図① (1/60)	166
第 120 図	SI10 実測図② (1/60)	167
第 121 図	SI10 カマド・カマド掘り方実測図 (1/30)	169
第 122 図	SI10 挖り方・遺物出土状況図 (1/60)	170
第 123 図	SI10 出土遺物実測図 (1/3・1/4)	171
第 124 図	SI11 実測図 (1/60)	172
第 125 図	SI11 挖り方 (1/60)・カマド・カマド掘り方 実測図 (1/30)	173
第 126 図	SI11 遺物出土状況図 (1/60)	174
第 127 図	SI11 出土遺物実測図 (1/3・1/4)	174
第 128 図	SI13・SI13 挖り方実測図 (1/60)	176
第 129 図	SI13 カマド A・カマド A 挖り方・カマド B 実測図 (1/30)	177
第 130 図	SI13 遺物出土状況図 (1/60)	178
第 131 図	SI13 出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4)	178
第 132 図	SI14 実測図 (1/60)	179
第 133 図	SI14 挖り方実測図 (1/60)	180
第 134 図	SI14 カマド A・カマド A 挖り方・カマド B 実測図 (1/30)	181
第 135 図	SI14 遺物出土状況図 (1/60)	182
第 136 図	SI14 出土遺物実測図① (1/4)	183
第 137 図	SI14 出土遺物実測図② (1/3)	184
第 138 図	SI15 A 実測図 (1/60)	185

第 139 図	SI15 カマド A・カマド A 挖り方実測図 (1/30).....	186
第 140 図	SI15 B 実測図 (1/60) .....	187
第 141 図	SI15B カマド・カマド掘り方実測図 (1/30).....	188
第 142 図	SI15 A 遺物出土状況図 (1/60) .....	189
第 143 図	SI15 A 出土遺物実測図 (1/3・1/4) .....	189
第 144 図	SI16 実測図 (1/60) .....	190
第 145 図	SI16 カマド・カマド掘り方・1号集石 実測図 (1/30).....	191
第 146 図	SI16 遺物出土状況図 (1/60) .....	192
第 147 図	SI16 掘り方実測図 (1/60) .....	192
第 148 図	SI16 出土遺物実測図 (1/3・1/4) .....	193
第 149 図	SI06 実測図 (1/60) .....	194
第 150 図	SI06 出土遺物実測図 (1/3).....	194
第 151 図	1号焼土遺構実測図 (1/30) .....	195
第 152 図	2・3・6号焼土遺構位置図 (1/60) · 出土遺物実測図 (1/3).....	196
第 153 図	2・3・6号焼土遺構実測図 (1/30) .....	197
第 154 図	4・5号焼土遺構実測図 (1/30) .....	198
第 155 図	SK04・10 実測図 (1/40).....	200
第 156 図	SK09 実測図 (1/40) .....	201
第 157 図	SK11 A・B 実測図 (1/40) .....	202
第 158 図	SK13・20 実測図 (1/40) .....	203
第 159 図	SK21 実測図 (1/40) .....	204
第 160 図	SK22・23 実測図 (1/40) .....	205
第 161 図	SK43 実測図 (1/40) .....	206
第 162 図	SK45・51 実測図 (1/40) .....	207
第 163 図	SK57 実測図 (1/40) .....	208
第 164 図	SK58・59 実測図 (1/40) .....	209
第 165 図	SK82・99 実測図 (1/40) .....	211
第 166 図	SK106 実測図 (1/40) .....	212
第 167 図	SK110 実測図 (1/40) .....	213
第 168 図	SK111 実測図 (1/40) .....	214
第 169 図	SK113 実測図 (1/40) .....	215
第 170 図	SK115・116 実測図 (1/40) .....	216
第 171 図	SK125・156 実測図 (1/40) .....	217
第 172 図	SK167 実測図 (1/40) .....	218
第 173 図	SK168・171 実測図 (1/40) .....	219
第 174 図	SK172 実測図 (1/40) .....	220
第 175 図	SK176 実測図 (1/40) .....	221
第 176 図	SK178 実測図 (1/40) .....	222
第 177 図	SK01 実測図 (1/30) .....	223
第 178 図	SK26・27・53 実測図 (1/30) .....	224
第 179 図	SK61 実測図 (1/30) .....	226
第 180 図	SK132・154 実測図 (1/30) .....	227
第 181 図	SK162・163・166 実測図 (1/30) .....	228
第 182 図	SK164 実測図 (1/30) .....	229
第 183 図	平安時代土坑出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4) .....	231
第 184 図	平安時代ビット出土遺物実測図 (1/3・1/4) .....	231
第 185 図	SK66 実測図 (1/30) .....	232
第 186 図	SD01 実測図 (1/80) .....	233
第 187 図	SD02 実測図 (1/80) .....	234
第 188 図	SD03 実測図 (1/80) .....	235
第 189 図	SD04 実測図 (1/80・1/200) .....	236
第 190 図	SD05 実測図 (1/80) .....	237
第 191 図	近世自然流路出土遺物実測図 (1/3・1/4) .....	238
第 192 図	SK02・03 実測図 (1/30) .....	240
第 193 図	SK05・06 実測図 (1/30) .....	241
第 194 図	SK07・08・12 A・B 実測図 (1/30) .....	242
第 195 図	SK14～16 実測図 (1/30) .....	244
第 196 図	SK17～19・24 実測図 (1/30) .....	246
第 197 図	SK25・28～30 実測図 (1/30) .....	248
第 198 図	SK31～34 実測図 (1/30) .....	249
第 199 図	SK35～38 実測図 (1/30) .....	251
第 200 図	SK40 A・B～42 実測図 (1/30) .....	253
第 201 図	SK44・46～48 実測図 (1/30) .....	254
第 202 図	SK49・50・54・55 実測図 (1/30) .....	256
第 203 図	SK52 実測図 (1/30) .....	257
第 204 図	SK56 実測図 (1/30) .....	258
第 205 図	SK60・62 実測図 (1/30) .....	260
第 206 図	SK63・64・68・70・72 実測図 (1/30) .....	262
第 207 図	SK76・77・80・81 実測図 (1/30) .....	263
第 208 図	SK83～85・87・88 実測図 (1/30) .....	265
第 209 図	SK89～93 実測図 (1/30) .....	267
第 210 図	SK94～98 実測図 (1/30) .....	269
第 211 図	SK101～104 実測図 (1/30) .....	271
第 212 図	SK105・107～109 実測図 (1/30) .....	272
第 213 図	SK112・114・117・118 実測図 (1/30) .....	274
第 214 図	SK119・120・122・123・127 実測図 (1/30) .....	276

第 215 図 SK128・129 実測図 (1/30) .....	277
第 216 図 SK130・133・134 実測図 (1/30) .....	278
第 217 図 SK135～137 実測図 (1/30) .....	280
第 218 図 SK138・140～142 実測図 (1/30) .....	282
第 219 図 SK144～146・148 実測図 (1/30) .....	283
第 220 図 SK149～152 実測図 (1/30) .....	285
第 221 図 SK153・158 実測図 (1/30) .....	286
第 222 図 SK160・165 実測図 (1/30) .....	288
第 223 図 SK169・170・173・174 実測図 (1/30) .....	289
第 224 図 SK175・177・179・180 実測図 (1/30) .....	291
第 225 図 遺構外遺物出土状況図 (1/60) .....	294
第 226 図 遺構外出土遺物実測図① (1/4) .....	295
第 227 図 遺構外出土遺物実測図② (1/3) .....	296
第 228 図 遺構外出土遺物実測図③ (1/1・1/3・1/4) .....	297
第 229 図 遺構外出土遺物実測図④ (1/3・1/4) .....	298
第 230 図 遺構外出土遺物実測図⑤ (1/3・1/4) .....	299
<b>中棚 I 道跡</b>	
第 231 図 調査区位置図 (1/2,500) .....	320
第 232 図 基本土層柱状図 (1/20) .....	321
第 233 図 調査区全体図 (1/600) .....	322
第 234 図 調査区分割図 (1/200) .....	323
第 235 図 SK02・05・06・09・10 実測図 (1/30) .....	324
第 236 図 SK17 実測図・遺物出土状況図 (1/30) .....	325
第 237 図 繩文時代土坑出土遺物実測図① (1/1・1/3) .....	326
第 238 図 繩文時代土坑出土遺物実測図② (1/3・1/4) .....	327
第 239 図 SI01・掘り方実測図 (1/60) .....	328
第 240 図 SI01 遺物出土状況図 (1/60) .....	329
第 241 図 SI01 出土遺物実測図① (1/4) .....	329
第 242 図 SI01 出土遺物実測図② (1/3) .....	330
第 243 図 SI02 実測図① (1/60) .....	331
第 244 図 SI02 実測図②・遺物出土状況図 (1/60) .....	332
第 245 図 SI02 床下土坑・掘り方実測図 (1/60) .....	333
第 246 図 SI02 カマド・カマド掘り方実測図 (1/30) .....	334
第 247 図 SI02 出土遺物実測図 (1/3・1/4) .....	336
第 248 図 SI03 実測図① (1/60) .....	338
第 249 図 SI03 実測図② (1/60) .....	339
第 250 図 SI03 ピット実測図 (1/60) .....	340
第 251 図 SI03 カマド・カマド掘り方実測図 (1/30) .....	342
第 252 図 SI03 遺物出土状況図 (1/60) .....	343
第 253 図 SI03 掘り方実測図 (1/60) .....	344
第 254 図 SI03 掘り方遺物出土状況図 (1/60) .....	346
第 255 図 SI03 出土遺物実測図① (1/4) .....	347
第 256 図 SI03 出土遺物実測図② (1/3・1/4) .....	348
第 257 図 SI03 出土遺物実測図③ (1/2・1/3) .....	349
第 258 図 SI04 実測図① (1/60) .....	350
第 259 図 SI04 実測図② (1/60) .....	351
第 260 図 SI04 防藏穴・ピット実測図 (1/60) .....	352
第 268 国 SI04 出土遺物実測図④ (1/3・1/4) .....	361
第 269 国 SI04 出土遺物実測図⑤ (1/2・1/3) .....	362
第 270 国 SK01・07 実測図 (1/30) .....	362
第 271 国 SK15・16 実測図 (1/30) .....	364
第 272 国 SK03・04・11・12 実測図 (1/30) .....	366
第 273 国 SK13・14 実測図 (1/30) .....	367
第 274 国 湿地跡実測図① (1/300) .....	368
第 275 国 湿地跡実測図② (1/100) .....	369
第 276 国 遺構外遺物出土状況図① (1/60) .....	371
第 277 国 遺構外遺物出土状況図②・③ (1/60) .....	372
第 278 国 遺構外出土遺物実測図① (1/3・1/4) .....	373
第 279 国 遺構外出土遺物実測図② (1/1・1/3) .....	374
第 280 国 遺構外出土遺物実測図③ (1/1・1/3) .....	375
第 281 国 遺構外出土遺物実測図④ (1/3・1/4) .....	376

### 挿 表 目 次

序説	
第1表 林地区試掘確認調査トレンチ一覧表	5
第2表 試掘トレンチ出土遺物観察表	11
第3表 発掘整理調査工程表	17
第4表 周辺の遺跡（広域・1/600,000）	20
第5表 周辺の遺跡	26
<b>上原Ⅱ遺跡</b>	
第6表 SI01 ピット計測表	42
第7表 SI02 ピット計測表	43
第8表 上原Ⅱ遺跡ピット観察表	96
第9表 上原Ⅱ遺跡堅穴状遺構諸属性一覧	101
第10表 上原Ⅱ遺跡出土遺物観察表	102
<b>上原Ⅲ遺跡</b>	
第11表 SI12 ピット計測表	129
第12表 SI01 ピット計測表	145
第13表 SI03 ピット計測表	147
第14表 SI04 ピット計測表	147
第15表 SI05 ピット計測表	159
第16表 SI08 ピット計測表	159
第17表 SI09 ピット計測表	168
第18表 SI10 ピット計測表	168
第19表 SI11 ピット計測表	174
第20表 SI13 ピット計測表	175
第21表 SI14 ピット計測表	182
第22表 SI15 ピット計測表	184
第23表 SI16 ピット計測表	187
第24表 SI06 ピット計測表	193
第25表 上原Ⅲ遺跡ピット観察表	292
第26表 上原Ⅲ遺跡住居跡諸属性一覧	301
第27表 上原Ⅲ遺跡出土遺物観察表	302
<b>中郷Ⅰ遺跡</b>	
第28表 SI02 ピット計測表	335
第29表 SI03 ピット計測表	345
第30表 SI03床下土坑計測表	345
第31表 SI04 ピット計測表	355
第32表 SI04床下土坑計測表	355
第33表 中郷Ⅰ遺跡ピット観察表	370
第34表 中郷Ⅰ遺跡住居跡諸属性一覧	377
第35表 中郷Ⅰ遺跡出土遺物観察表	378



# 序 說



# 第1章 調査概要

## 第1節 調査に至る経緯

長野原町林地区は町の北東部、東西に流れる吾妻川の左岸に位置している。林地区を含むこの地域は吾妻川を中心とした南北の山地地形が迫る山あいの地で、河川沿いの下位・中位段丘は八ッ場ダムによる水没予定地である。林地区はこのダム対象地域の中でも河岸段丘面が他地区に比べて広く、かつ地区全体が南向き斜面のため多くの遺跡を包含していることが知られている。

当地区は古くからの農村風景を色濃く残す地域であったが、ダム関連の生活再建事業で水没地区からの移転や国道付替工事および県道・町道新設（拡幅）工事等の開発が計画され、この開発によってかつての水田や畠が分断されることから、残存農地の整理、農業経営の向上、農地の保全、並びに農村環境の近代化を目的とした土地改良事業の必要性が高まった。平成15年9月に「林地区土地改良事業推進協議会」が設立され、役員会により具体的な計画構想を検討し始めた。

平成19年1月下旬に群馬県八ッ場ダム水源地域対策事務所および長野原町役場産業建設課より林地区土地改良事業の計画が示され、埋蔵文化財の取り扱いについて、長野原町教育委員会教育課に照会があった。対象地はほぼ全域が周囲の包蔵地の範囲内に含まれていることから試掘確認調査の必要がある旨を説明し、事業採択前の埋蔵文化財の取扱いを決定するための確認調査ということで調査実施の合意を得た。文化財保護法第94条第1項の規定により、同年1月29・31日付けて関係書類（「開発に伴う文化財調査願書」・「発掘届」）が提出された。同年3月1日～22日に教育委員会文化財担当の立会いのもと、対象地内に76本の試掘坑（トレンチ）を設定し（実施は58本）、遺構の有無および土層の堆積状況の事前調査を行った。その結果、58本中31本で縄文時代～平安時代を中心とした遺構・遺物が検出され、地点毎の遺跡の内容及び表土から遺物包含層まで深さを大まかに把握することができた（第1図・第1表）。この結果を踏まえ、土地改良事業の事業計画範囲（ほ区）や工法の工夫などの摺り合わせ協議を重ねた結果、同じ包蔵地内でも①造成前に発掘調査（記録保存）する必要がある区域と②整地工の切盛を少なくして調査を行わない区域とに分別することができ、各遺跡での調査対象面積を確定していった。それと併行して調査計画の策定、調査体制の検討や調査費用の積算、地権者の承諾、議会の承認、委託契約締結などを経て、調査体制は長野原町教育委員会直営ではあるが民間発掘会社の調査員支援というかたちを採り、調査期間は平成23年度から平成26度までの全体で4年計画（最初の3年は発掘調査および整理調査、最終年度で報告書作成）で、平成23年5月11日より本調査を実施する運びとなった。

## 第2節 試掘確認調査の成果

上述した通り、平成19年3月1日～22日まで事業予定地内に76本の試掘坑（トレンチ）を設定し、遺構の有無および土層の堆積状況を記録する試掘確認調査を実施した。障害物等で実際には58本の実施に留まつたが、そのうち31本で縄文時代～平安時代を中心とした住居跡や土坑などの遺構が検出され、テンバコ7箱分の遺物が出土した。その当時の開発予定面積50.276m<sup>2</sup>に対して試掘確認面積は9遺跡、2.051m<sup>2</sup>であった。この調査概要は以前報告しているので詳細はそちらを参照願いたい（長野原町教育委員会 2008）。

この試掘確認調査結果に基づき、掘削工事予定箇所の遺構・遺物の検出範囲、並びに道路敷設予定箇所の遺構・遺物の検出範囲、障害物等で調査に入れなかった包蔵地範囲内を大まかな発掘調査区域とし、そこから整地工の切盛を少なくして調査を行わない区域を差し引いた7遺跡、33.300m<sup>2</sup>を最終的な調査対象面積とした。この調査結果で得られた各遺跡の様相は発掘調査のそれと比べてみると概ね合致しており、調査前に実施した当該調査の有効性が追認されたといえよう。ただしこの後も事業計画範囲（ほ区）の変更等で調査面積は変動



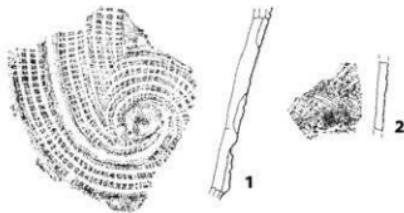
第1図 林地区試掘坑跡調査トレチ位置図(1/6,500)

第1表 林地区試掘確認調査トレンチ一覧表

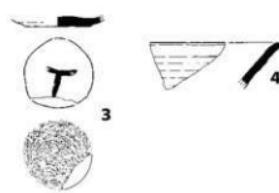
トレンチ名	遺跡名	調査区 内／外	検出遺構	表土からの深さ	掲載の有無	備考
1	中棚 I	内	縄文早期包含層	0.7m	—	
2	—	—			—	
3	中棚 I	外			—	
4	中棚 I	外	平安包含層（住居か）	1.1m	○	T 3・4周辺も掲載。
5	—	—			—	
6	林宮原VI	外			—	
7	林宮原VI	外	平安住居2軒	0.23～0.65m	○	
8	林宮原VI	外	溝状遺構1条	0.55m	○	
9	林宮原VI	外			—	
10	—	—			—	
11	—	—			—	
12	林中原 I	外	縄文後期初頭住居1軒	0.33m	○	
13	林中原 I	外	縄文中期後半の包含層	0.4m	○	住居跡の可能性が高い。
14	林中原 I	外	中近世包含層	0.4m	○	
15	林中原 I	内	中世溝状遺構1条	0.27m	○	2-第368図76
16	林中原 I	内			—	
17	—	—			—	
18	—	—			—	
19	林中原 I	外	縄文中期後半～後期前葉包含層	0.27～0.45m	○	
20	林中原 I	外	縄文中期後半～後期前葉包含層	0.45m	○	
21	—	—			—	
22	—	—			—	
23	—	—			—	
24	林中原 II	外	縄文中期後半包含層・土坑1基・平安 陥し穴1基	0.2～0.3m	○	
25	林中原 II	外			—	
26	—	—			—	
27	—	—			—	
28	上原IV	内	縄文晚期～弥生包含層	0.4m	○	2-第282図2・5・11 1-第67図1
29	上原IV	内			—	
30	上原IV	内			—	
31	上原 I	内			—	
32	—	—			—	
33	上原 I	内	縄文前期包含層	0.6m	○	2-第207図26 2-第209図54・70 2-第211図102
34	上原 I	内	縄文前期・中期後半・晚期～弥生包含 層	0.7～0.8m	○	2-第207図30 2-第211図120 2-第212図135
35	上原 I	内	平安住居か・焼土ピット2基	0.7m	○	2-第213図158
36	上原 I	内	縄文包含層・土坑1基	0.9～1.2m	—	
37	上原 I	内	縄文中期後半住居1軒・土坑3基	0.9～1.1m	○	2-第208図51
38	東原 I	外	縄文中期後半・晚期包含層	0.5m	○	
39	上原 II	外			—	
40	上原 II	外	縄文土器片	不明	—	
41	上原 II	外			—	
42	上原 III	内			—	
43	上原 III	内			—	
44	上原 III	内	土師器選片（平安）	0.4m	—	
45	上原 III	内	平安包含層	0.3m	—	
46	上原 III	内	平安製鉄関連遺構・羽口・鉄滓	0.4m	○	1-第229図53・56
47	上原 III	内	土師器片（平安）	0.35～0.65m	—	
48	上原 III	内	平安包含層（住居か）	0.85m	—	
49	上原 III	内	平安包含層	0.5m	○	1-第229図63
50	上原 III	内	土坑1基・灰釉陶器片（平安）	0.5m	—	

51	上原Ⅲ	外				-
52	上原Ⅲ	外				-
53	上原Ⅲ	外				-
54	上原Ⅲ	外				-
55	上原Ⅲ	外				-
56	上原Ⅲ	外				-
57	-	-				-
58	上原Ⅲ	外				-
59	上原Ⅱ	内				-
60	上原Ⅱ	内	縄文土器片	0.65 ~ 0.8m		-
61	上原Ⅱ	内				-
62	上原Ⅱ	内				-
63	上原Ⅱ	内				-
64	上原Ⅱ	内				-
65	-	-				-
66	上原Ⅱ	内	縄文中期前半土坑1基	0.3m		-
67	上原Ⅱ	内	縄文中期前半包含層	0.24m	○	1-第68図8 1-第70図38
68	上原Ⅱ	内	縄文土器片	0.4m		-
69	上原Ⅱ	内				-
70	上原Ⅱ	内				-
71	上原Ⅱ	内				-
72	上原Ⅱ	内	縄文土器片	0.4m	○	1-第70図41
73	-	-				-
74	-	-				-
75	-	-				-
76	-	-				-

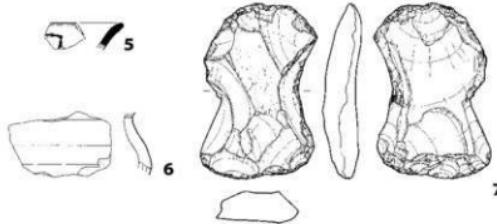
3・4トレンチ周辺(中棚Ⅰ遺跡)



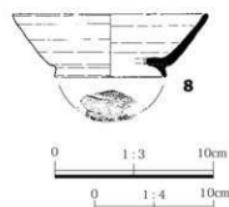
4トレンチ(中棚Ⅰ遺跡)



7トレンチ(林宮原遺跡VI)



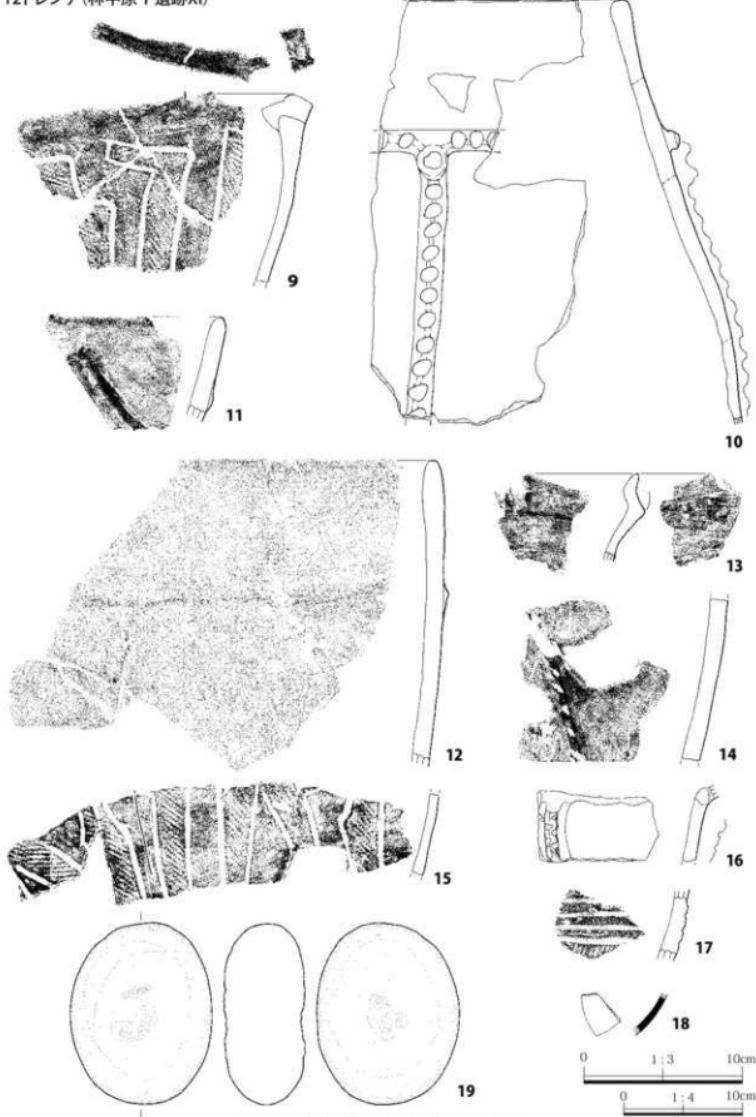
8トレンチ周辺(林宮原遺跡VI)



第2図 試掘出土遺物実測図①(1/3・1/4)

したことを追記しておきたい。ここでは当該調査で出土した遺物のうち、調査対象地から外れた地点のものを中心に掲載する。

12トレンチ(林中原Ⅰ遺跡XI)

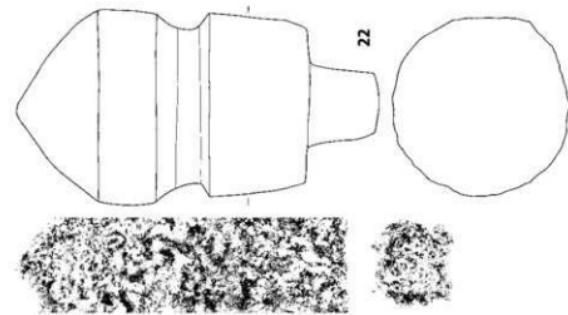
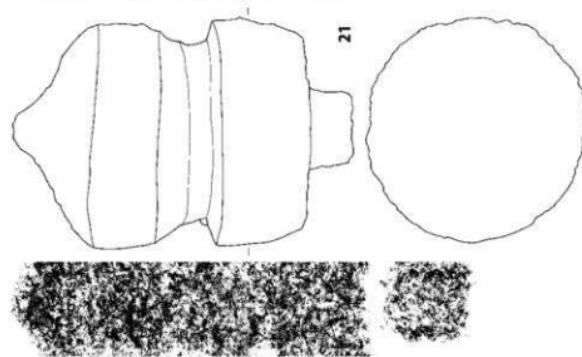
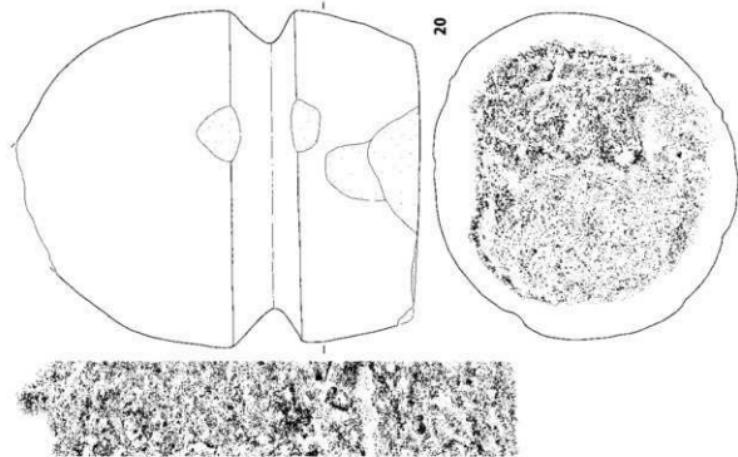


第3図 試掘出土遺物実測図②(1/3・1/4)

第4図 試振出土遺物実測図③(1/3)

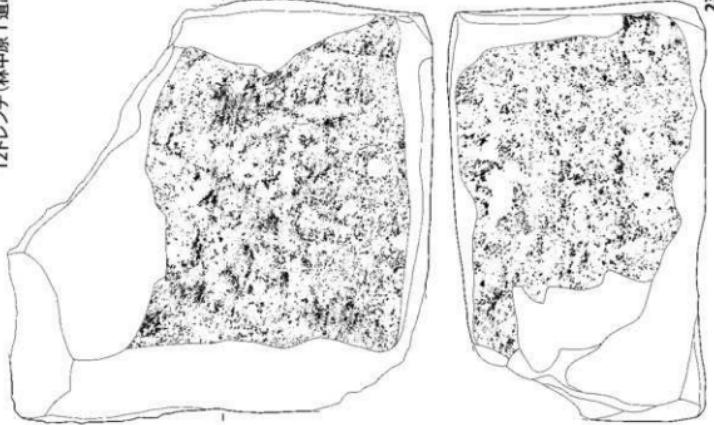
0 1:3 10cm

12トレンチ(林中原遺跡X)

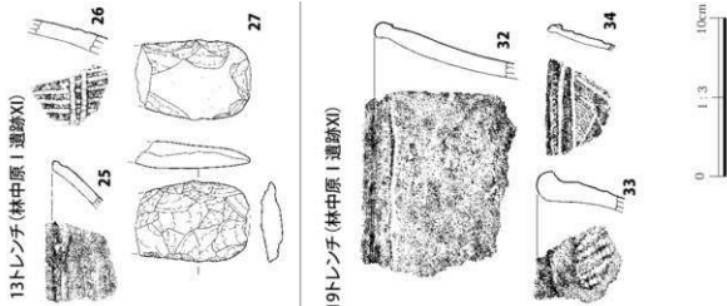


第5図 試掘出土遺物実測図④(1/3)

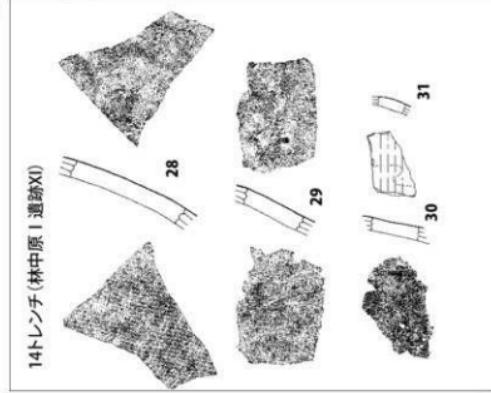
12トレンチ(林中原Ⅰ遺跡X)



13トレンチ(林中原Ⅰ遺跡X)



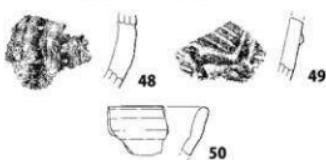
19トレンチ(林中原Ⅰ遺跡X)



19トレンチ(林中原Ⅰ遺跡X)



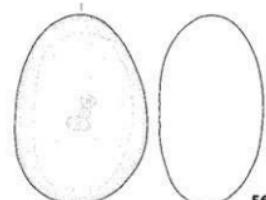
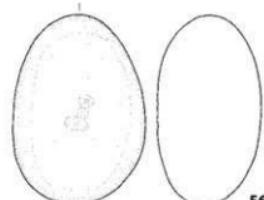
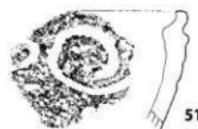
24トレンチ(林中原Ⅱ遺跡X)



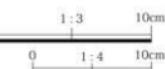
20トレンチ(林中原Ⅰ遺跡XI)



38トレンチ(東原Ⅰ遺跡II)



50トレンチ(上原Ⅲ遺跡)



第6図 試掘出土遺物実測図⑤(1/3・1/4)

第2表 試掘トレンチ出土遺物観察表

## 3・4トレンチ周辺（中棚Ⅰ・遺跡）表採遺物観察表

辨別No	回収No	器種	法量 (最高/口径/底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外側/内面)	備考
2・1	1	縄文土器・深鉢	(12.2) /-/ -	外面は平隣配板文に施されているように平行沈線を加え、さながら船底下部起線文と形容できる。内面は文中心部に円形の鉢底を有する。外縁部に斜面が施される。他の箇所には斜面が施される。外縁はナギ。内面は楕・斜面ナギ。	良好	角閃石・石英・全雲母複合	暗褐色/赤褐色	破片資料 (体部) 3・4トレンチ 周辺表探
2・2	1	縄文土器・深鉢	(4.4) /-/ -	外面は单筋 LD・RL 縄文施文。粘節 RL 縄文も見受けられる。外面はナギ。内面は楕・斜面ナギ。	良好	角閃石	褐	破片資料 (体部) 3・4トレンチ 周辺表探

## 4トレンチ（中棚Ⅰ・遺跡）出土遺物観察表

辨別No	回収No	器種	法量 (最高/口径/底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外側/内面)	備考
2・3	1	須恵器・坪	(1.0) /-/ 5.4	クロ口彫形。内面ともにロクロナギ。底部は右回転切妻。底部外側に墨書きあり、「人」と考えられる。	還元焰・ やや良好	砂粒・白色粒	浅黄	体部下位～底 部70%残存。 4トレンチ
2・4	1	須恵器・坪	(2.9) /-/ -	クロ口彫形。内面ともにロクロナギ。外縁のクロ口彫跡が顕著に残る。	還元焰・ やや良好	砂粒・長石・ 角閃石	に赤い黄	破片資料 (口縁部) 4トレンチ

## 7トレンチ（林宮原遺跡VI）出土遺物観察表

辨別No	回収No	器種	法量 (最高/口径/底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外側/内面)	備考
2・5	1	須恵器・坪	(1.7) /-/ -	ロクロ彫形。内面ともにロクロナギ。外縁に墨書きがあるが、判別できない。	還元焰・ やや良好	砂粒・白色粒	灰黄	破片資料 (口縁部) 7トレンチ
2・6	1	土師器・壺	(3.0) /-/ -	ロクロ彫。小型と考えられる。内外面上にもロクロナギ。	還元焰・ 良好	砂粒・白色粒・ 石英	褐	破片資料 (底部) 7トレンチ
2・7	1	打製石斧・ 鋸・打製石斧	長11.0 幅7.3 厚2.4	重量 1984g。分脚形。刃部摩耗あり。	-	黒色真目	-	完存。 7トレンチ

## 8トレンチ（林宮原遺跡VI）表採遺物観察表

辨別No	回収No	器種	法量 (最高/口径/底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外側/内面)	備考
2・8	1	須恵器・ 壺	5.3 < 16.4 >/ < 9.2 >	ロクロ彫形。内面ともにロクロナギ。底部は回転切り後に高台を削り出しし、周辺を窓位にて仕切る。体部の内外面に自然縫合が残す。	還元焰・ 良好	砂粒・白色粒	暗灰黄	口縁部～高台 部 15%残存。 8トレンチ 周辺表探

## 12トレンチ（林中原I・遺跡XI）出土遺物観察表

辨別No	回収No	器種	法量 (最高/口径/底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外側/内面)	備考
3・9	1	縄文土器・ 深鉢	(11.7) /-/ -	口縁部が肥厚し、突起を持つ。沈線による文様、單孔丸・縄文施文。外縁はナギ。内面は楕・斜面ナギ。	良好	角閃石	褐	破片資料 (口縁部) 12トレンチ
3・10	1	縄文土器・ 深鉢	(26.5) /-/ -	彫形が見立てられる。口縁部は無文。彫部からら出でて直線を有するS字状の幾筋かがある。底と縁の隙間の接続部に内凹部がある。外縁はナギ。内面は楕・斜面ナギ。	良好	角閃石複合	褐／ に赤い斑駁	破片資料 (口縁部～ 底部) 12トレンチ
3・11	1	縄文土器・ 深鉢	(6.5) /-/ -	彫形による文様を施文する。外縁は楕・斜面ナギ。内面は楕・斜面ナギ。瓶底明瞭。	良好	白色粒・ 石英微量	黄褐	破片資料 (口縁部) 12トレンチ
3・12	1	縄文土器・ 深鉢	(19.1) /-/ -	口縁部がわずかに肥厚する。ナギこれまで筒形による輪廻巻文が施文され、筒形を作り出す。外縁は楕・斜面ナギ。内面は楕・斜面ナギ。瓶底明瞭。第3回14上同一個体か。	良好	石英・白色粒	暗褐色/褐色	破片資料 (口縁部) 12トレンチ
3・13	1	縄文土器・ 深鉢	(4.9) /-/ -	S字状に外反し、突起を持つ。口縁部が沈線から隣接部が重なる。彫部に横走沈線を施文する。内面は文中心部に円形の鉢底を有する。内凹部とともに楕・斜面ナギ。	良好	砂粒	黑褐	破片資料 (口縁部) 12トレンチ
3・14	1	縄文土器・ 深鉢	(10.1) /-/ -	弱みで作る隣接による輪廻巻文を施文する。外縁はナギ。内面は楕・斜面ナギ。	良好	石英	に赤い褐	破片資料 (体部) 12トレンチ
3・15	1	縄文土器・ 深鉢	(6.7) /-/ -	沈線による文様を描き、單節 RL 縄文施文。外縁はナギ。内面は楕・斜面ナギ。	良好	石英・角閃石	黑褐	破片資料 (体部) 12トレンチ

辨別番号	個数	器種	法量 (高さ/口径/底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等 (外側/内面)	色調 (外側/内面)	備考	
3-16	2	縄文土器・深鉢	(4.7) /-/ -	口部が外反する。交差刺突を伴う傾斜部が添され、角押文が施される。外側は鏡・斜位ナデ。内面は楕位ナデ。	良好	金雲母多量	暗褐色	破片資料 (全体)	試験 12トレンチ
3-17	2	縄文土器・深鉢	(4.4) /-/ -	外側には横走沈縫を施す。単節LR(縄文)と記す。外側は楕位ナデ。内面は楕位ナデ。	良好	白色粒	に赤い赤褐色	破片資料 (全体)	試験 12トレンチ
3-18	2	須惠器・环か	(2.6) /-/ -	环と表記されたが、小型須惠器などの別器種の可能性もある。表面は荒れており、二次被熱の結果と考えられる。調査不明。	荒元焼・ 良好	砂粒・白色粒	暗灰黄	破片資料 (全体)	試験 12トレンチ
3-19	2	石製品・ 閃石+ 磨石	長11.3 /幅8.9/ 厚5.0	重量747g。表面には中央付近に二対の不整なくぼみがあり、周辺は削られた。表面にもくぼみがあり、周辺は削られた。	-	粗粒 輝石安山岩	-	完存。	試験 12トレンチ
4-20	2	石製品・ 五輪軸 (火輪軸)	長<25.3 /幅 21.0 /厚 19.0	重量11200g。空風輪。頭部と基底部の一部を欠く。底面は部分的に破損があるが、突起部は存在しない。	-	凝灰岩	-	(頭部欠) 90%残存。	試験 12トレンチ
4-21	2	石製品・ 五輪軸 (火輪軸)	長21.5 /幅14.5/ 厚13.8	重量4000g。空風輪。	-	安山岩 (多孔質)	-	完存。	試験 12トレンチ
4-22	2	石製品・ 五輪軸 (火輪軸)	長22.8 /幅12.2/ 厚11.1	重量3500g。空風輪。	-	安山岩 (多孔質)	-	完存。	試験 12トレンチ
5-23	2	石製品・ 五輪軸 (地輪)	長16.2 /幅26.1/ 厚(26.5)	重量(11200) g. 地輪。周囲を欠く。	-	凝灰岩	-	60%残存。	試験 12トレンチ
5-24	3	石製品・ 五輪軸 (火輪)	長10.0 /幅22.0/ 厚10.0	重量(3500) g. 大輪。四隅の1つが欠けている。水輪との接地面が凹む。	-	安山岩 (多孔質)	-	ほぼ完存。	試験 12トレンチ

### 13トレンチ（林中原Ⅰ遺跡X）出土遺物観察表

辨別番号	個数	器種	法量 (高さ/口径/底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等 (外側/内面)	色調 (外側/内面)	備考	
5-25	3	縄文土器・ 浅鉢	(3.1) /-/ -	外面は無文である。内外面ともに楕位崩壊。	良好	砂粒・赤色粒	暗灰黄	破片資料 (全体)	試験 13トレンチ
5-26	3	縄文土器・ 深鉢	(5.0) /-/ -	外面は縱走沈縫の横走沈縫を施す。外側は楕位ナデ。	良好	石英・角閃石・ 白色粒	に赤い赤褐色	破片資料 (全体)	試験 13トレンチ
5-27	3	打製石斧・ 類・ 打製石斧	長(7.2) /幅(5.0) /厚1.3	重量(28.6) g. 表面は全体的に調整されるが、裏面は平滑な直面を呈す。刃部は少し欠けており、使用印の加筆によると思われる痕跡が見られる。	-	粗粒 輝石安山岩	-	刃部剥離残存。	試験 13トレンチ

### 14トレンチ（林中原Ⅰ遺跡X）出土遺物観察表

辨別番号	個数	器種	法量 (高さ/口径/底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等 (外側/内面)	色調 (外側/内面)	備考	
5-28	3	陶器・甕	(8.6) /-/ -	筋縫陶甕。甕。常滑。中世。体部下位の破壊と考慮。第5回では同一個体か。	良好	灰黄褐色	に赤い赤褐色	破片資料 (全体下位)	試験 14トレンチ
5-29	3	陶器・甕	(5.0) /-/ -	筋縫陶甕。甕。常滑。中世。体部下位の破壊と考慮。第5回では同一個体か。	良好	灰黄褐色	に赤い赤褐色	破片資料 (全体下位)	試験 14トレンチ
5-30	3	軟質陶器・ 内耳鏡	(4.2) /-/ -	内耳鏡とともにモザイク。体部下位の破片と考慮されるが、不明確。	良好	砂粒・角閃石	明褐色	破片資料 (全体下位)	試験 14トレンチ
5-31	3	陶器・甕	(3.0) /-/ -	丸窓か、圓窓か。美濃。近世。内外面とともに灰動が強められ、外面上には薄い玉垂れ状の液下がある。	良好	灰黄	明オリーブ灰	破片資料 (全体下位)	試験 14トレンチ

### 19トレンチ（林中原Ⅰ遺跡X）出土遺物観察表

辨別番号	個数	器種	法量 (高さ/口径/底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等 (外側/内面)	色調 (外側/内面)	備考	
5-32	3	縄文土器・ 深鉢	(8.9) /-/ -	口部が頗れ、外面上に段をもつ。文内斜位崩壊とし、斜位ナデ。	良好	砂粒	明褐色	破片資料 (全体)	試験 19トレンチ
5-33	3	縄文土器・ 深鉢	(5.4) /-/ -	外側は橢円形(?)と文内内斜節LR(縄文)と記す。	良好	砂粒	明褐色	破片資料 (全体)	試験 19トレンチ
5-34	3	縄文土器・ 深鉢	(4.2) /-/ -	外側は1条の横走沈縫帶に2条の横走沈縫が描かれ、単節LR(縄文)と記す。外側は斜位崩壊とし、斜位ナデ。	良好	白色粒	暗褐色／黒褐色	破片資料 (全体)	試験 19トレンチ
6-35	4	縄文土器・ 深鉢	(5.3) /-/ -	沈縫帶による横走文、口部刺突文を施す。外側はナデ。内面は楕位ナデ。	良好	砂粒	に赤い黄褐色	破片資料 (全体)	試験 19トレンチ
6-36	4	縄文土器・ 深鉢	(6.1) /-/ -	無文。外側は楕位ナデ・延縫明瞭。内面は楕位ナデ。いわゆる野性文ナデ・楕位土器。	良好	石英	に赤い黄褐色	破片資料 (全体)	試験 19トレンチ
6-37	4	縄文土器・ 深鉢	(6.0) /-/ -	無文。4条の横走沈縫。弱めを施文する。外側はナデ。内面は研磨。	良好	角閃石	に赤い黄褐色	破片資料 (全体)	試験 19トレンチ
6-38	4	縄文土器・ 深鉢	(3.7) /-/ -	3条の横走沈縫を施文する。單節LR(縄文)と記す。外側はナデ。細い横走沈縫。内面はナデ。	良好	砂粒	灰褐色／ 破片資料 (全体)	試験 19トレンチ	
6-39	4	縄文土器・ 深鉢	(4.3) /-/ -	4条の横走沈縫。区切り文を施文する。外側はナデ。内面は楕位ナデ。	良好	砂粒	赤褐色	破片資料 (全体)	試験 19トレンチ

6-40	4	縦文土器・深鉢	(3.6) /-/ /<7.8>	外面は無文である。底部外面に網代焼残る。外面はナデ。内面は横位ナデで網代焼残る。	良好	角閃石	褐／黒褐色	底部 20% 残存。	試験 10 レンチ
6-41	4	縦文土器・深鉢	(5.2) /-/ /6.6	無文。内外面ともにナデ。	やや不良	砂粒	黄褐色	底部完存。	試験 10 レンチ
6-42	4	縦文土器・深鉢	(2.0) /-/ /11.4	外面は横位ナデ。指痕の底明瞭。内面はナデが底明瞭。底部外面に網代焼残り、何箇に渡るような網を示す。部分的にスミなし。黒褐色。	良好	砂粒	褐	底部ほぼ完存。	試験 10 レンチ
6-43	4	縦文土器・深鉢	(2.8) /-/ /-	無文。内外面ともにナデ。右部内面は、横位焼。	良好	砂粒	明赤褐色	破片資料 (右部)	試験 10 レンチ
6-44	4	土器類・甕	(5.3) /-/ /-	底部付近の焼片であろう。外面は縦位ナデで強く、内面はヘラナデで弱く、指痕が残る。	強化帯・ 良好	砂粒・角閃石	褐	破片資料 (全体下位) 積きはもう少し薄く。 古墳時代か。	試験 10 レンチ
6-45	4	陶器・甕	(3.8) /-/ /-	尾呂茶碗。瀬戸・美濃。近世。口縁部は極めてわずかに外反するが、ほぼ直立する。内外面ともに休窓には鉄物が施され、口縁部には柄の貫軸が二重捺付けされる。	良好	に赤い黄褐色	浅黄	破片資料 (口縁部～ 全体上位)	試験 10 レンチ

## 20 レンチ (林中原 I 遺跡 X) 出土遺物観察表

種別No	回数No	器種	法量 (高さ/口径/底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外側/内側)	備考
6-46	4	縦文土器・ 深鉢	(4.0) /-/ /-	外面は無文である。内外面ともに横位ナデ。	良好	石英	明黄色	破片資料 (左側部) 20 レンチ
6-47	4	縦文土器・ 深鉢	(3.1) /-/ /-	外面は沈線による文様を施文する。内外面ともに横位ナデ。	良好	角閃石	暗赤褐色／褐	破片資料 (全体) 20 レンチ

## 24 レンチ (林中原 II 遺跡 X) 出土遺物観察表

種別No	回数No	器種	法量 (高さ/口径/底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外側/内側)	備考
6-48	4	縦文土器・ 深鉢	(4.7) /-/ /-	外面は深位による文様を施文する。内面は浮出物・スミ付着。外面はナデ。内面は横位ナデ。	良好	砂粒	赤褐色／黒褐色	破片資料 (全体) 24 レンチ
6-49	4	縦文土器・ 深鉢	(3.8) /-/ /-	外面は深位による文様施文のち、沈線文を施文する。	良好	砂粒	褐	破片資料 (口縁部) 24 レンチ
6-50	4	軟質陶器 か	(3.1) /-/ /-	器種は不明瞭。内外面ともに横位ナデで、口縁部は面取り状に平滑気味になる。中段以降か。	強化帯・ 良好	砂粒・ 赤褐色	明黄色	破片資料 (口縁部) 24 レンチ

## 38 レンチ (東原 I 遺跡 II) 出土遺物観察表

種別No	回数No	器種	法量 (高さ/口径/底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外側/内側)	備考
6-51	4	縦文土器・ 深鉢	(7.5) /-/ /-	波紋を呈す口縁部である。外面は沈線による構造状の模様を描き、單層LR 織文施文。内面は口縁部が差受けのように段がついて、内面には横位ナデ。	良好	砂粒	に赤い黄褐色	破片資料 (口縁部) 38 レンチ
6-52	4	縦文土器・ 深鉢	(4.9) /-/ /-	外面は口縁部を除いて横位の区段文と強しきもみが見られる。区画内に条線文が施されるようである。内外面ともに横位ナデ。	良好	砂粒	暗赤褐色	破片資料 (口縁部) 38 レンチ
6-53	4	縦文土器・ 深鉢	(4.0) /-/ /-	外面は深位による文様を施文する。上位は互交斜縫を挟み、斜位焼成の条線文が施される。下位は隣間に縱位条線文が施されるようである。内面は横位ナデ。	良好	砂粒	に赤い赤褐色 明赤褐色	破片資料 (全体) 38 レンチ
6-54	4	縦文土器・ 深鉢	(2.4) /-/ /9.2	外面は無文である。底部外面に網代焼残り。縫緝はナデため網代焼が不明瞭となる。内外面ともにナデ。	良好	石英	に赤い黄褐色	底部完存。 38 レンチ
6-55	4	甕生土器・ 甕	(3.8) /-/ /-	外面は斜縫の底明瞭条縫文のち、沈線文を施文する。外面上に化物焼付着付着。内面には網代焼が施される。	良好	砂粒	に赤い赤褐色 に赤い黄褐色	破片資料 (全体) 38 レンチ
6-56	4	礫石器・ 四石・ 磨石	長11.8/幅8.2/ 厚6.5	重量 855g。表面中央に浅いぼみが3つある。周辺は研石として使用される。裏面に使用痕はない。	-	粗粒 鷹石鞍山岩	-	完存。 38 レンチ

## 50 レンチ (上原Ⅲ 遺跡) 出土遺物観察表

種別No	回数No	器種	法量 (高さ/口径/底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外側/内側)	備考
6-57	4	陶器・ 壺	(5.4) /-/ /-	壺の底部破片。内外面ともに鉄物が施錆される。内面には13条以上で一単位の印し目が残る。瀬戸・美濃。近世。	良好	-	に赤い赤褐色	破片資料 (全体) 50 レンチ

## 第3節 調査の方法

### (1) 発掘調査

今回の町営林土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査事業では、7遺跡の発掘調査を実施したが、発掘調査の方法の基本的な事項は共通しているので、ここに記載する。

#### a. 表土除去

表土除去は重機（バックフォー）、排土運搬はクローラーを使用して行なった。土地改良事業に伴う発掘調査であるため、畑・水田耕作土とその下の土（合わせて表土）は分けて置くことにした。排土置き場に余裕がなかった上原Ⅰ遺跡Ⅱ・上原Ⅳ遺跡Ⅳ、林中原Ⅰ遺跡ⅩI・林中原Ⅱ遺跡Ⅹは発掘調査区内に表土・排土を置き、反転して調査を行なった。各遺跡の試掘調査で確認された土層を参考に、確認面であるか不安な場所は深掘りを入れて確認を行いながら掘削を行なった。パケットの爪に鉄板を装着し、遺構を傷つけないように配慮した。

#### b. 遺構確認

遺構確認は上述の表土除去後に行なった。確認面上面を人力で削り、平面形を確認した。遺構確認面と遺構覆土が同じような遺跡が多く、遺構確認作業が困難な面があった。

#### c. 遺構発掘及び遺物の取り上げ

遺構の発掘作業は、遺構の平面形を確定した後で、適宜土層観察ベルトを設定して行なった。竪穴住居跡は十字に設定し、土坑は短軸で半截を基本とし、状況によっては十字ベルトを設定した。陥し穴は短軸で半截し、長軸でエレベーション作成を基本とした。地山と遺構覆土が非常に似ており、見分けがつきにくい遺跡が多いことから、確認のためサブトレンチ掘削を積極的に行った。

遺物の取り上げについては、遺構に伴うと判断したもの及び遺存状態の良い物は出土状況図またはドット図を作成し、標高を計測して取り上げた。その他の遺物は、出土層位に留意して層位ごとに取り上げた。

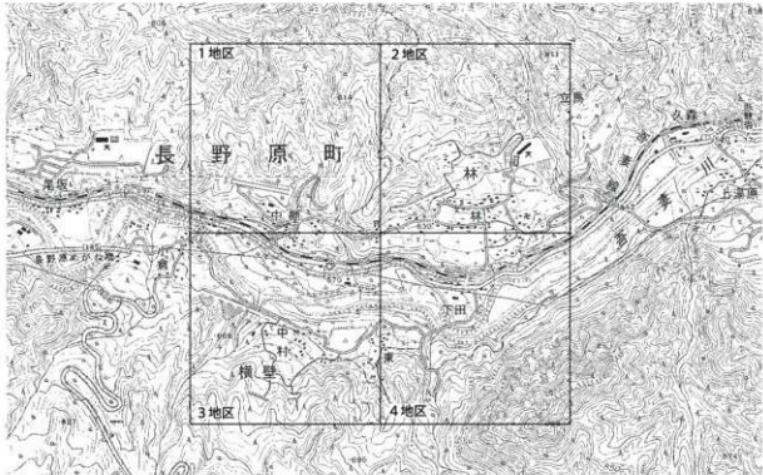
#### d. 遺構実測図の作成および遺構の写真撮影

遺構実測図は、光波測距儀を用いて全体図、土層堆積状況図、遺物出土位置図、完掘状況遺構平面図を作成し、必要に応じてエレベーション図の作成も行った。全体図を1/200、竪穴住居跡のカマド・炉跡、焼土遺構、個別の遺物出土位置図を1/10、その他の図面を1/20で図化した。

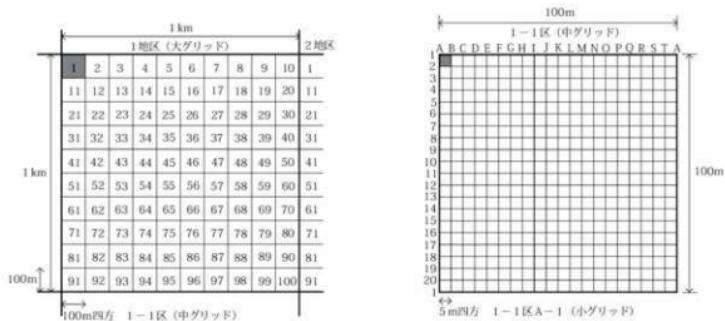
遺構の記録写真は、35mm小型一眼レフカメラとデジタルカメラを併用して撮影した。モノクローム・カラー・リバーサルの2種類のフィルムを使用し、両者同一カットを3枚1単位で露出を変えて撮影した。上原Ⅱ遺跡・上原Ⅲ遺跡・中棚Ⅰ遺跡・上原Ⅰ遺跡Ⅱ・上原Ⅳ遺跡Ⅳ・林中原Ⅰ遺跡ⅩIではラジコンヘリによる空中写真撮影を行なった。

#### e. グリッド設定

今回の町営林土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務を行うにあたり、発掘調査を実施する7遺跡を網羅するグリッド設定を行なった。長野原町大字長野原付近の国家座標（X = 62,000、Y = -105,000、世界測地系）を起点として東へ2km、南へ2kmの正方形を設定した。これを1km四方に4分割したものを「地区」（大グリッド）とし、北西・北東・南西・南東の順に1地区から4地区とした。この「地区」を100m四方の区画で100分割したものを「中グリッド」とした。北西隅部から北東隅部へ1・2・3・10、次の段を11・12・13・20とし、南東隅部が100となる。「中グリッド」をさらに5m四方の区画で400分割したものを「小グリッド」とした。北西隅を起点として区画線を東へA・B・C・T、南へ1・2・3・20とし、線の交点の南東側が対象グリッドとなる。そのため、北西隅部がA-1、南東隅部がT-20となる。本文中のグリッド表記は、「地区」と「中グリッド」を併せて『区』とし、その後ろに小グリッドを続いている。表記例として、1-1区A-1となる（第7・8図）。このグリッドは、今回の事業を対象に設定したものであるため、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団（平成24年4月に（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団から名称変更。以下事業団とする。）が行なっているハッ場ダム建設工事に伴う発掘調査で設定しているグリッドとは整合し



第7図 「地区」(大グリッド)設定図(1/25,000)



第8図 中グリッド・小グリッド設定図

ていない。

上原II遺跡は2—54・64区、上原III遺跡は2—42・43・52・53・62・63区、中棚I遺跡は1—96・97区、3—6・7区、上原I遺跡IIは2—66・67・76・77区、上原IV遺跡IVは2—74・75区、林中原I遺跡XIは4—4・5・6・14・15区、林中原II遺跡Xは2—86・87・96・97区、4—7区に位置している。

## (2) 自然科学分析

遺跡及び確認された遺構の性格を詳細に把握するため、発掘調査の成果に基づいて以下の項目で自然科学分析を実施した。

### a. 錫冶関連物の金属学的調査

上原Ⅲ遺跡で錫冶工房跡が確認され、上原Ⅰ遺跡Ⅱでは錫冶関連物が出土した。各遺跡における錫冶工程の実態を検討するため、各遺跡で錫冶工程に違いが見られるかを検討するため実施した。

### b. 炭化材樹種同定

上原Ⅲ遺跡・上原Ⅰ遺跡Ⅱ・上原Ⅳ遺跡Ⅳで平安時代の焼失住居跡が確認された。また、上原Ⅲ遺跡では錫冶工房跡から、上原Ⅰ遺跡Ⅱでは縄文時代前期・古墳時代前期の竪穴住居跡から炭化材が出土した。平安時代および縄文時代前期の使用木材の樹種を同定するため実施した。

### c. 放射性炭素年代測定

先述した平安時代の焼失住居跡および錫冶工房跡、縄文時代前期・古墳時代前期の竪穴住居跡の暦年代を算出するため実施した。

### d. 出土人骨・骨片鑑定

中棚Ⅰ遺跡から骨片が、林中原Ⅰ遺跡XIIから中世人骨が出土した。中棚Ⅰ遺跡の骨片は人骨・獸骨の識別および部位の特定を目的として、林中原Ⅰ遺跡XIIの中世人骨は被葬者の人物像を特定することを目的として実施した。

## (3) 整理調査・報告書作成の経過

町営林土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務は、発掘調査から報告書刊行まで4か年の計画で実施された。平成23・24年度は、発掘調査終盤の秋期から年度末にかけて出土遺物の洗浄・注記・接合・復元作業を行い、実測図作成以降の作業は次年度に行なった。平成25年度は、発掘調査が8月に終了したので9・10月に出土遺物の洗浄・注記・接合・復元作業を行った。7遺跡（上原Ⅱ遺跡・上原Ⅲ遺跡・中棚Ⅰ遺跡・上原Ⅰ遺跡Ⅱ・上原Ⅳ遺跡Ⅳ・林中原Ⅰ遺跡XII・林中原Ⅱ遺跡X）の出土遺物の実測図・トレース図作成、写真撮影などの基礎整理・作図作業を年度末の平成26年3月で終了した。平成26年4月から7遺跡の報告書編集作業を開始し、11月中旬に終了し入稿した。その後、資料・出土遺物の整理作業を行い、平成27年3月末に発掘調査報告書・出土遺物・遺構図面・写真・遺物実測図・写真などの成果品を納品した。4か年の発掘調査、整理調査・報告書作成作業の経過は第3表に記載した。

また、平成23～26年度にかけて、毎年11月3日の長野原町文化祭に出土遺物などの展示を行った。

表3 整理發掘工程調查

The chart illustrates the following key events:

- H23 (Year):**
  - Month 5: Start of earthmoving (上原I・II・III・IV) and foundation work (林中原I・II・III・IV).
  - Month 6: Foundation work continues.
  - Month 7: Foundation work continues.
  - Month 8: Foundation work continues.
  - Month 9: Foundation work continues.
  - Month 10: Foundation work continues.
  - Month 11: Foundation work continues.
  - Month 12: Foundation work continues.
- H24 (Year):**
  - Month 1: Foundation work continues.
  - Month 2: Foundation work continues.
  - Month 3: Foundation work continues.
  - Month 4: Foundation work continues.
  - Month 5: Foundation work continues.
  - Month 6: Foundation work continues.
  - Month 7: Foundation work continues.
  - Month 8: Foundation work continues.
  - Month 9: Foundation work continues.
  - Month 10: Foundation work continues.
  - Month 11: Foundation work continues.
  - Month 12: Foundation work continues.
- H25 (Year):**
  - Month 1: Foundation work continues.
  - Month 2: Foundation work continues.
  - Month 3: Foundation work continues.
  - Month 4: Foundation work continues.
  - Month 5: Foundation work continues.
  - Month 6: Foundation work continues.
  - Month 7: Foundation work continues.
  - Month 8: Foundation work continues.
  - Month 9: Foundation work continues.
  - Month 10: Foundation work continues.
  - Month 11: Foundation work continues.
  - Month 12: Foundation work continues.
- H26 (Year):**
  - Month 1: Foundation work continues.
  - Month 2: Foundation work continues.
  - Month 3: Foundation work continues.
  - Month 4: Foundation work continues.
  - Month 5: Foundation work continues.
  - Month 6: Foundation work continues.
  - Month 7: Foundation work continues.
  - Month 8: Foundation work continues.
  - Month 9: Foundation work continues.
  - Month 10: Foundation work continues.
  - Month 11: Foundation work continues.
  - Month 12: Foundation work continues.
- H27 (Year):**
  - Month 1: Foundation work continues.
  - Month 2: Foundation work continues.
  - Month 3: Foundation work continues.
  - Month 4: Foundation work continues.
  - Month 5: Foundation work continues.
  - Month 6: Foundation work continues.
  - Month 7: Foundation work continues.
  - Month 8: Foundation work continues.
  - Month 9: Foundation work continues.
  - Month 10: Foundation work continues.
  - Month 11: Foundation work continues.
  - Month 12: Foundation work continues.

## 第2章 遺跡の立地と環境

### 第1節 遺跡の位置

本遺跡群が所在する長野原町は群馬県北西部にある吾妻郡域の南西隅に位置し、東は吾妻郡東吾妻町（旧吾妻町）・高崎市倉渕町（旧倉渕村）、北は吾妻郡草津町・同郡中之条町（旧六合村）、西は吾妻郡嬬恋村と接し、南は浅間高原を経て長野県北佐久郡軽井沢町と県境をなす。本町は高間・白根の両山系と大洞山系とに挟まれた吾妻川流域地帯の北部と、高原地帯の南部とに大別され、高原地帯を除きほとんどが河川・溪沢に向かう山岳傾斜地帯である。

町の北西には草津白根山（標高2,170m）、南西には浅間山（標高2,568m）が位置する。町域も北部は高間山（標高1,341.7m）や王城山（標高1,123.2m）、吾妻川より南に丸岩（標高1,124m）や音峰（標高1,473.5m）など、南部は南東から南にかけて浅間隠山（標高1,756.7m）、鷹巣山（標高1,431.4m）、鼻曲山（標高1,655m）など、周囲を1,000m～1,800m級の険しい山々で囲まれている。

長野原町の河川は長野県境の鳥居峠付近（標高1,362m）を水源とする吾妻川が東流し、それに万座川や熊川・白砂川など主に両岸の山地から発する諸支流が注ぎ、渋川市街地付近で利根川右岸に合流する。町域は吾妻川の中流にあたるが、かつて酸性を帯びた水質をもつ支流の流入により、中流より下流にかけて魚類の生息に適さない状態であった。しかし石灰投入による中和処理が開始されて以来、水質の改善が行われている。

吾妻川両岸は大字長野原付近でやや幅が広く、河岸段丘が発達する（第11図）。この段丘面は最上位・上位・中位・下位の4段階で形成されている。これら段丘面とその上位の丘陵上に縄文時代～平安時代にかけての遺跡が多く見つかっており、現在でも住宅地や田畠として利用されている。これらの段丘は約21,000年前に浅間山から噴出した応桑泥流堆積物が侵食されて形成されており、その上を覆っている関東ローム層中には約11,000年前に噴出した浅間・草津黄色軽石層（As-YPk）が堆積しているのが認められる。現在の吾妻川からの比高差は最上位段丘面で約80～90m、上位段丘で約60～65m、中位段丘で30m前後、下位段丘で約10～15mを測る。大字川原湯から東では川幅が狭まり峡谷をなし、吾妻渓谷を形成している。

長野原町が含まれる浅間山周辺地域は、気候的には太平洋側の気候区に入るが、高地であることから寒冷な中央高地型の気候がみられる。しかし吾妻川沿いの標高600mの谷底から、最高点の浅間隠山の1,756mまでと起伏に富んでおり、地理的条件も変化が大きいため、地区ごとに気候・気象に変化が見られる。降水量も地形により変化するが、年間降水量は関東平野各地域とはほぼ等しい。降水量の年変化は日本海側と異なり冬季に少なく夏季に多い。

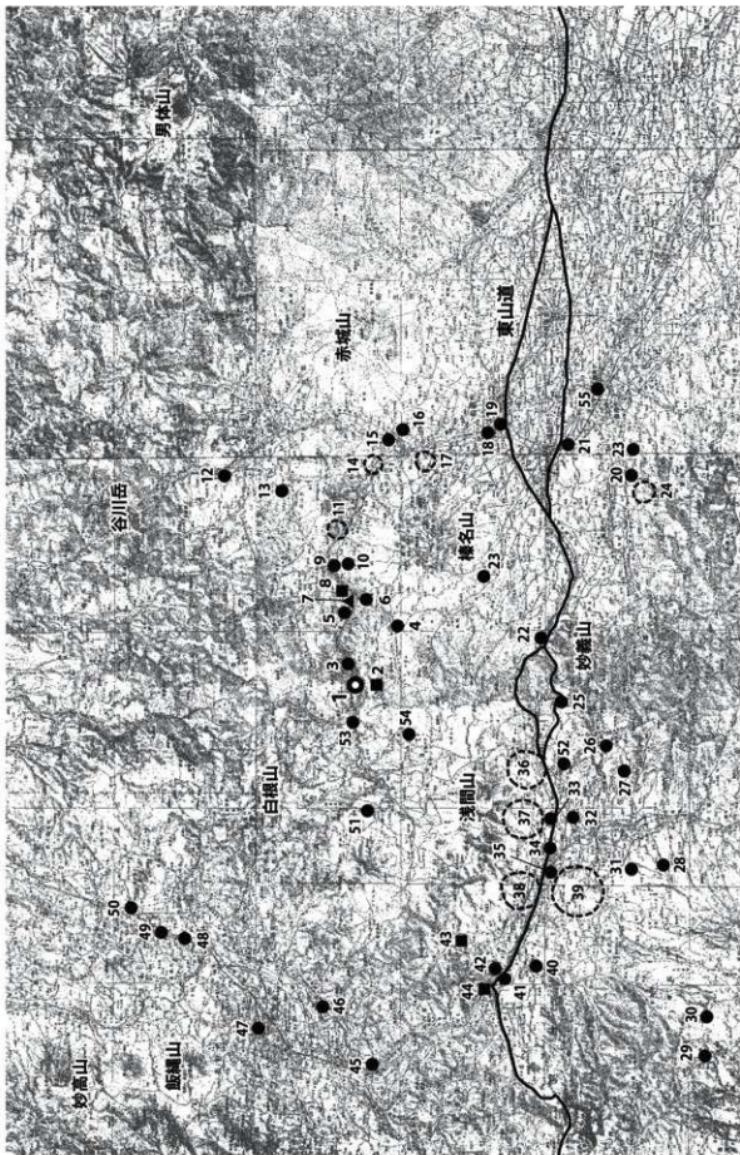
今回報告する遺跡群は町域北部の吾妻川流域帶にあり、吾妻川左岸の河岸段丘上に立地している。上原I・II・III・IV遺跡と林中原I・II遺跡は最上位段丘に、それより直線距離で900mほど西に位置する中棚I遺跡は上位段丘に相当する。遺跡はすべて大字林に所在し、この林地区は王城山の南麓に位置している。そして遺跡の対岸には円柱状の独特的山容を呈する丸岩がそびえている。

### 第2節 周辺の遺跡

長野原町における遺跡の調査は、昭和29年に行われた勘場木遺跡の調査を始めとして、昭和38・47・48年には群馬県による分布調査が行われ、昭和53年には石畑I岩陰遺跡が発掘調査された。昭和62年度からは長野原町教育委員会（以下、町教委とする）で全町を対象とした遺跡詳細分布調査が3か年をかけて行われ、183か所の埋蔵文化財包蔵地が確認された。これ以降、町教委による発掘調査が行われ、さらに平成6年からハッカダム建設事業に伴う発掘調査が事業団によって実施されている。

本遺跡群を含む吾妻川流域地帯には多くの遺跡が分布している（第9・10図、第4・5表）。遺跡は基本的

第9図 遺跡の位置と周辺の道路(圧縮・1/690,000)



第4表 周辺の遺跡（広域・1/600,000）

今回調査地点			弥生時代	
1 林地区遺跡群	群馬県 長野原町		7 岩橋山廬の巣岩陰遺跡	群馬県 東吾妻町
旧石器時代			16 帯道跡	群馬県 沼川市（旧赤坂村）
13 新田西沢遺跡	群馬県 高山村		20 神保富土塚遺跡	群馬県 高崎市（旧吉井町）
26 八風山遺跡群	長野原 佐久市		21 龍見町遺跡	群馬県 高崎市
27 天神小畠遺跡	長野原 佐久市		47 箱清水遺跡	長野原 長野市
28 立科F遺跡	長野原 佐久市		48 乗林遺跡	長野原 中野市
29 和田峰遺跡群	長野原 長和町（旧和田村）		50 柳沢遺跡	長野原 中野市
			55 沖II遺跡	群馬県 藤岡市
縄文時代			古墳時代	
15 白井大宮II遺跡	群馬県 沼川市（旧子持村）		4 濱遺跡	群馬県 東吾妻町
22 横川大林遺跡	群馬県 安中市（旧松井田町）		5 机古墳	群馬県 東吾妻町
23 三ノ倉合古墳跡	群馬県 高崎市（旧渕曾村）		6 四戸古墳群	群馬県 東吾妻町
30 鷹山遺跡群	長野原 長和町（旧長門町）		25 入山岬遺跡	群馬県 安中市（旧松井田町）
33 堆田遺跡	長野原 御代田町			長野原 軽井沢町
34 地土遺跡	長野原 小諸市		31 渕の峯古墳群	長野原 佐久市
35 氷道跡	長野原 小諸市		40 社軍遺跡	長野原 上田市（旧丸子町）
49 千田遺跡	長野原 中野市		45 森谷塚古墳	長野原 千曲市（旧更埴市）
52 梅沢南石堂遺跡	長野原 軽井沢町		46 大堂古墳群	長野原 長野市
53 坪井遺跡	群馬県 長野原町			
奈良・平安時代				
9 天台瓦窯	群馬県 中之条町			
10 金井廟寺	群馬県 東吾妻町			
11 市代牧（推定地）	群馬県 中之条町市域・東吾妻町大字新巻（旧東村）との説あり。			
12 月夜野古墓跡群	群馬県 みなかみ町（旧月夜野町）			
14 利川牧（推定地）	群馬県 沼川市（沼川市・旧子持村）・沼田市周辺との説あり。			
17 有馬尻（推定地）	群馬県 沼川市有馬・沼川市有馬付近～前橋市荒牧との説あり。			
18 上野国国分寺・國分尼寺跡	群馬県 前橋市・高崎市（旧群馬町）			
19 上野国国府（推定地）	群馬県 前橋市			
23 吉井古墓跡群	群馬県 高崎市（旧吉井町）			
24 新屋牧（推定地）	群馬県 甘楽町大字天引・新屋・甘楽町一帯との説あり。			
32 騎師屋遺跡群	長野原 御代田町・佐久市・小諸市			
36 長倉牧（推定地）	長野原 軽井沢町			
37 塩野牧（推定地）	長野原 御代田町			
38 新治牧（推定地）	長野原 東御市（旧東部村）			
39 望月牧（推定地）	長野原 佐久市（旧望月町）・東御市（旧北御牧村）			
41 信濃国国分寺・國分尼寺跡	長野原 上田市			
42 信濃国国府（推定地）	長野原 上田市			
51 千俣前田遺跡	群馬県 嵐憲村			
54 大屋原第三遺跡	群馬県 長野原町			
中・近世				
2 丸岩城	群馬県 長野原町	43 真田氏館跡	長野原 上田市（旧真田町）	
3 東宮遺跡	群馬県 長野原町	44 上田城	長野原 上田市	
8 岩櫃城	群馬県 東吾妻町			

に吾妻川とその支流沿いの河岸段丘上およびその上位の丘陵上に占地しており、近年これまで空白だった時期の遺構も検出されている。ここでは調査を実施した遺跡を中心に当該地域の遺跡を概観しておきたい。

### （1）旧石器時代

これまでのところ長野原町では旧石器時代の遺跡は確認されていない。吾妻川流域は前述した応桑泥流やAs-YPkが厚く堆積しており、それより下位の発掘調査が困難な状況がある。遺構外の遺物としては柳沢城跡（第10図62）で細石器文化に伴うと考えられる珪質頁岩製のスクレイパーが1点出土している。吾妻郡内においても旧石器時代遺跡は高山村に所在する新田西沢遺跡（第9図13）でしか確認されていないというが現状である。

このことは長野県側の浅間山麓でも同様で、厚く堆積した火山噴出物により旧石器時代面の発掘調査は困難であるようだ。長野県側の浅間山麓付近で発掘調査されている旧石器時代遺跡は、いずれも千曲川を挟み浅間山麓の対岸側で確認されている。

## (2) 縄文時代

### ① 草創期～早期

草創期の遺跡としては石畑Ⅰ岩陰遺跡（第10図9）がある。横壁勝沼遺跡（第10図50）では草創期の槍先型尖頭器が表採されている。

早期になると榆木Ⅱ遺跡（第10図46）で燃糸文期の住居跡31軒が発見されたほか、立馬Ⅰ遺跡（第10図32）や立馬Ⅲ遺跡（第10図34）でも早期の集落が検出されている。このように主に吾妻川左岸において集落が発見される傾向がある。中棚Ⅰ遺跡（本報告。第10図3）では土坑6基が検出し、縦条体圧痕文をもち体部下半に縦条体による条痕文をもつ土器が出土しており、群馬県内では横川大林遺跡（旧松井田町。第9図22）や白井大宮Ⅱ遺跡（旧子持村。第9図15）に類例を求める。

また石畑Ⅰ岩陰遺跡に代表される岩陰遺跡は、丘陵部の自然にせり出した岩場を利用するため、群馬県内では分布・遺跡数ともに限られる。そのような中で長野原町域では21遺跡34か所確認されており、半数以上が吾妻川左岸に分布している。岩陰遺跡の多さは本町の特徴の一つである。

### ② 前期

前期の遺跡も少ないが漸増の傾向にある。前期初頭の花積下層Ⅰ式土器を主体とする集落が坪井遺跡で発見された。この遺跡は塙田式土器（長野県御代田町塙田遺跡（第9図33）・下弥町遺跡を標識遺跡とする）と花積下層Ⅰ式土器が土坑で共伴した事例が見つかっており、花積下層Ⅰ式土器が主体である。前述の横川大林遺跡でも花積下層Ⅰ式土器や塙田式土器が見られ、浅間山麓をめぐる何らかの交流が想起できる。上原Ⅰ遺跡の本調査区隣接地を平成24年度に事業団が調査し、該期の集落の続きが出ているようである。このほか二ツ木式・関山式・黒浜式・諸磯式など各期の集落が本町では見つかっているが、規模はそう大きくない。

### ③ 中期

中期は他の時期に比して遺跡数が増加する。中期初頭の五領ヶ台式期では榆木Ⅱ遺跡や立馬Ⅱ遺跡（第10図33）で集落が調査されている。群馬県内において該期の遺跡は西毛地域や吾妻地域に偏る傾向があるが、長野県内では広域な分布が見られる状況である。上原Ⅱ遺跡（本報告。第10図1）も五領ヶ台Ⅱ式～阿玉台Ⅰa式期を中心とする遺跡で、いわゆる深沢式土器や東信系土器など、長野県との交流を示すような資料も出土している。中期後半になると広い範囲で集落が認められ、横壁中村遺跡（第10図51）と長野原一本松遺跡（第10図64）は該期を代表する大規模集落として挙げられる。林中原Ⅱ遺跡（第10図7）や横壁中村遺跡、上ノ平Ⅰ遺跡（第10図18）では焼町類型期の集落が検出している。坪井遺跡では弧状石列を伴う加曾利E式期の集落が発見され、出土土器は大きく分けて加曾利E式・曾利式・郷土式・柄倉式土器である。郷土式土器は加曾利E式と曾利式の折衷ともいえ、浅間山麓一帯に分布している。柄倉式については新潟県長岡市柄倉遺跡が標識遺跡であるが、長野県中野市千田遺跡（第9図49）の調査事例により、長野県北西部が中心地である可能性が指摘されている。上原Ⅰ遺跡（本報告）でも柄倉式土器が出土している。事業団調査の林中原Ⅱ遺跡では中期後半～後期にかけての弧状石列や住居跡が発見され、焼骨を伴う土坑も検出している。

### ④ 後期

後期前半までの遺構や遺物は発見されているが、後期後半になると事例が減るようである。中期から継続して横壁中村遺跡と長野原一本松遺跡では集落が継続する。長野原一本松遺跡では珍しい形態の柄鏡形敷石住居が検出しており、柄と本体をつなぐ部分から列石が延びている。また、上原Ⅳ遺跡（本報告。第10図5）でも敷石住居が調査されている。町教委調査の林中原Ⅰ遺跡（第10図6）では1軒の住居跡から多量の堀之内2式土器が出土した。

後期後半の加曾利B式期では事業団調査の上原IV遺跡や横壁中村遺跡で住居跡が検出されており、後者は掘立柱建物跡も発見されている。後期後葉～終末にかけては横壁中村遺跡で高井東式期や安行2式期の住居跡が調査された程度である。

#### ⑤ 晩期

晩期はこれまで事例が少なかったが、特に末葉の事例は増えつつある。今回の調査でも晩期前半の遺構や遺物は皆無に等しかった。晩期末葉になると立馬1遺跡や横壁中村遺跡で住居跡が検出されている。特に横壁中村遺跡では遺構外ではあるが多量の土器が出土している。また立馬1遺跡では長野県松本市の女鳥羽川遺跡を標識遺跡とする女鳥羽川式土器が出土している。川原湯勝沼遺跡(第10図29)においては土坑が数基検出され、その内の1基は「氷式突蒂巣」と浮線文系の妻が出土している。この妻棺再葬墓は東日本でも最古級として注目されよう。そのほか久々戸遺跡(第10図66)で氷式土器の浅鉢、向原遺跡で大洞A'式まで遡ると考えられる土器片も見つかっている。

### (3) 弥生時代

弥生時代の遺跡は分布調査の時点では後期に属する居家似岩陰群(第10図74)、寺久保遺跡、新田原I遺跡の3遺跡のみであったが、縄文時代晩期末葉～弥生時代中期前半までの資料は増えてきている。横壁中村遺跡では住居跡1軒と埋設土器が2基、再葬墓と考えられる土坑など前期の遺構がある程度まとまって認められた。尾坂遺跡では前期末の再葬墓と思われる土坑や完形土器2個体を出土する土坑や貯藏穴など、林中原II遺跡でも末葉の再葬墓が1基確認されている。また上原I遺跡(本報告)でも短頸壺を納めた土坑が発見されている。中期になると遺跡数も増え、立馬1遺跡で前半～中葉と後半の遺物を主体とする住居跡がそれぞれ1軒ずつと、後半の土器棺墓を含む土坑4基が、事業団調査の林中原II遺跡で前半の住居跡4軒、また住居跡と考えられる竪穴状遺構や土坑6基も検出されている。坪井遺跡でも前半の住居跡1軒と中葉～後葉の再葬墓と考えられる土坑1基を含む5基の土坑が調査されている。東海地方に起源をもつ櫛王式土器や水神平式土器は長野県においても中・南信を中心に広がりを見せており、本遺跡群をはじめ吾妻郡域でも該期の土器が出土している。後期の遺跡は減少し、石畳遺跡(第10図8)で該期の土器を含む土坑が1基確認されているのみである。遺構外出土の遺物は分布調査時に前述の3遺跡で表採されているほか、立馬1遺跡で中期後半、二社平遺跡(第10図12)で後期～古墳時代前期とされる樽式(樽式系)の土器片が出土している。

### (4) 古墳時代

古墳時代についてはこれまで明確な遺構が確認されていなかったが、上原I遺跡(本報告)で前期と考えられる住居跡からS字状口縁台付甕や円形土器が出土し、中期の高杯を伴う土坑も検出された。前期の住居跡は吾妻郡内でも宿遺跡(旧吾妻町、第9図4)で確認されているのみであり貴重である。後期の住居跡は上原IV遺跡(本報告)で2軒、林宮原遺跡(第10図39)と下原遺跡(第10図48)ではそれぞれ1軒ずつ発見され、後者からは滑石製白玉も出土しており注目される。また川原湯勝沼遺跡では土器器蓋を伴う土坑が1基と、遺構外で劍形石製模造品が出土している。長野県との県境に位置する安中市松井田町入山峠遺跡(第9図25)、あるいは長野県側の兩境峠遺跡群では多量の石製模造品などが出土しており、それぞれ峠の祭祀跡と考えられている。入山峠遺跡は東山道における「碓冰坂」の比定地の一つであるが、古墳時代前期の遺物を中心に縄文時代～近世までの遺物の出土が認められる。出土遺物などから古墳時代が安定した祭祀形態の開始時期としつつも、縄文時代には峠道として機能していたと考えられている。本遺跡群を含む長野原町域では、縄文時代以降断続的に長野県域、特に東信地域との交流を示す遺物が出土しており、のちの東山道や街道と呼ばれる道のうち、いくつかは原始・古代より通じていたのかもしれない。

長野原町の古墳については、昭和4年刊行の『群馬縣吾妻郡誌』では林地区の「御塚」が古墳とされ、昭和13年刊行の『上毛古墳総覧』では大津地区の「鉄塚」、与喜屋地区的「五輪塚」が前方後円墳と報告されている。未調査ではあるもののいずれも古墳とするには根拠が薄く、現時点では机古墳(第9図5)の所在する東

吾妻町岩島付近が西限となる。しかし前述のように該期の住居跡の存在が明らかになりつつあることを踏まえれば、今後の調査によって当地域の古墳が確認される可能性も否定できない。

#### （5）奈良・平安時代

律令制下においては国ごとに国府が、郡ごとに郡衙が置かれ地方支配の拠点となり、諸国を結ぶ駅路と呼ばれる道路が整備された。群馬県は「上野国」と呼ばれ東山道に所属していた。上野国府（第9図19）は現在の前橋市元総社町にあったと推定されており、その北西には上野国分僧寺・尼寺跡（第9図18）が存在する。10世紀頃の編纂とされる『和名類聚抄』によれば、律令制下の吾妻郡は長田・伊參・大田の3つの郷に区分されていた。しかし3郷とも主に東吾妻地域に比定されており、長野原町を含む西吾妻地域には郷が存在しなかったと考えられている。一方、隣接する現在の長野原の大部分は律令制下で「信濃国」と呼ばれていた地域に当たる。信濃国府（第9図42）が最初に置かれたのは、信濃國分僧寺・尼寺（第9図41）と同じく現在の上田市であったとされている。また東山道駅路は信濃国から上野国に向かう道路が信濃国の長倉駅から国境をなす碓氷峠を通り、坂本・野後駅を経て国府近くの群馬駅・佐位・新田駅を経て下野国に通じている。

奈良時代の遺跡は極めて希薄で、羽根尾II遺跡が散布地として確認されているが、該期の遺物との特定はできないとの指摘もあり確定的ではない。一方、東吾妻町では県内の初期寺院の一つである金井磨寺（第9図10）が建立されたのが7世紀後半ごろとされ、前畠遺跡など該期の集落遺跡も発見されている。吾妻郡衙については原町の大宮巖鼓神社周辺とする説もあるが、確定には至っていない。東吾妻町の下郷古墳群では古代の公的な建物跡と考えられる掘立柱群が検出され、円面鏡なども出土し注目される。中之条町では天台瓦窯（第9図9）の発掘調査がおこなわれている。このように律令制下の公的施設と考えられる遺跡は、東吾妻地域に偏重する傾向が見られる。平安時代になると西吾妻地域でも遺跡数が増え、中棚I・II・III・IV遺跡（本報告）のほか、上ノ平I遺跡、林宮原遺跡、横壁中村遺跡、榆木II遺跡、長野原一本松遺跡、坪井遺跡などが挙げられる。いずれも9世紀後半～10世紀前半に限定された集落遺跡となるが、長野原一本松遺跡では10世紀末～11世紀初めと比定される住居跡も検出されている。これらの遺跡からの出土遺物としては墨書き土器や灰釉陶器などがあるが、特に榆木II遺跡と中棚I遺跡（本報告）では「三家」と書かれた墨書き土器も発見されており注目される。また本遺跡群を含め該期の遺跡では、いわゆる「ロクロ彌」など長野原県域で主体的に認められる土器が出土している。長野・山梨両県を中心に認められる、麻生産に関わる芋引金具と考えられる鉄製品も三原I遺跡（第10図15）、林宮原遺跡、榆木I遺跡で出土しており、長野原県との交流が窺える。上原III遺跡（本報告）では鍛冶工房跡と考えられる遺構が確認され、前述した遺跡からも住居跡や土坑から羽口や鉄滓などが出土する例があることから、これらの遺跡あるいは遺跡周辺に、鍛冶に関連する施設ないしは職人が存在していたと考えられる。また当地域に多く認められる遺構として、いわゆる陥し穴とされる土坑がある。主にイノシシやシカを対象とした罠獵遺構と想定されている。時期の特定が難しく縄文時代の遺構と捉えられていたが、金属刃先と考えられる工具痕跡の存在や覆土の観察などから、弥生時代以降あるいは平安時代以降などと比定されるものも報告されている。そのほか特徴的な遺物としては、町立中央小学校の敷地から出土したとされる瓦塔の破片があり町重要文化財に指定されているが、中世まで下るとの意見もある。上ノ平I遺跡では皇朝十二銭「貞觀永寶」が出土しており、県内では今のところ3例確認されていることになる。

#### （6）中世

『吾妻鏡』によれば仁治2（1242）年、本地域は三原荘と呼ばれ海野幸氏の所領であったとされるが、正確な莊域は不明である。後の戰国期には齋藤氏や真田氏らが活躍したと記されている。特に林の地については、永禄6（1563）年の9月の長野原城の戦いの際に、齋藤氏らが王城山から林の神社（現在の王城山神社）を拠点にして、合戦の地となったことが『加沢記』などにも記されている。その後、齋藤氏が滅亡すると共に武田氏による渴本氏への支配が強化されるが、武田氏やその後の北条氏の滅亡後、沼田城主真田氏の所領となる。

吾妻川流域地帯には中世城郭が点在し、その立地は当時の道と関連して交通の要衝に多いとされる。町域では金花山砦跡（第10図24）、柳沢城跡、丸岩城跡（第10図61）、長野原城跡、羽根尾城跡などが挙げられる。林地区では林城跡や林の烽火台跡が知られている。これらの中で柳沢城跡は一部が発掘調査されており、郭跡や堀切などが検出され陶器類など多彩な遺物が出土した。草津街道沿いには、須賀尾跡を越えて草津へ至る草津道が通っており、須賀尾跡側には道東に丸岩があり丸岩城が築かれた。この城を湯本氏など諸将が守って、大戸方面から侵入しようとする北条氏に備え岩櫃・上田間の要路を保持したという。また事業団調査の林中原I遺跡では林城跡が確認された。

近年では城跡以外の該期の遺構も発見されてきており、三平II遺跡（第10図16）、東原III遺跡（第10図38）、榆木II遺跡、長野原一本松遺跡で掘立柱建物跡が確認され、尾坂遺跡（第10図65）では掘立柱建物跡や土坑・烟跡が調査された。下位段丘面に位置する下原遺跡では屋敷跡や土坑墓に加え、中世～近世にかけての烟跡が、横壁中村遺跡でも石垣を伴う屋敷跡3棟と掘立柱建物跡、中世～近世にかけての烟跡や墓坑群が調査されている。二反沢遺跡（第10図41）では石垣で区画された造成跡が確認され、陶磁器類と共に鉄滓や炉壁片など鍛冶関連遺構が出土した。立馬I遺跡、東原I遺跡（第10図36）、東原II遺跡（第10図37）、林中原I遺跡、林中原II遺跡などでも中世～近世にかけての掘立柱建物跡や土坑が調査されている。

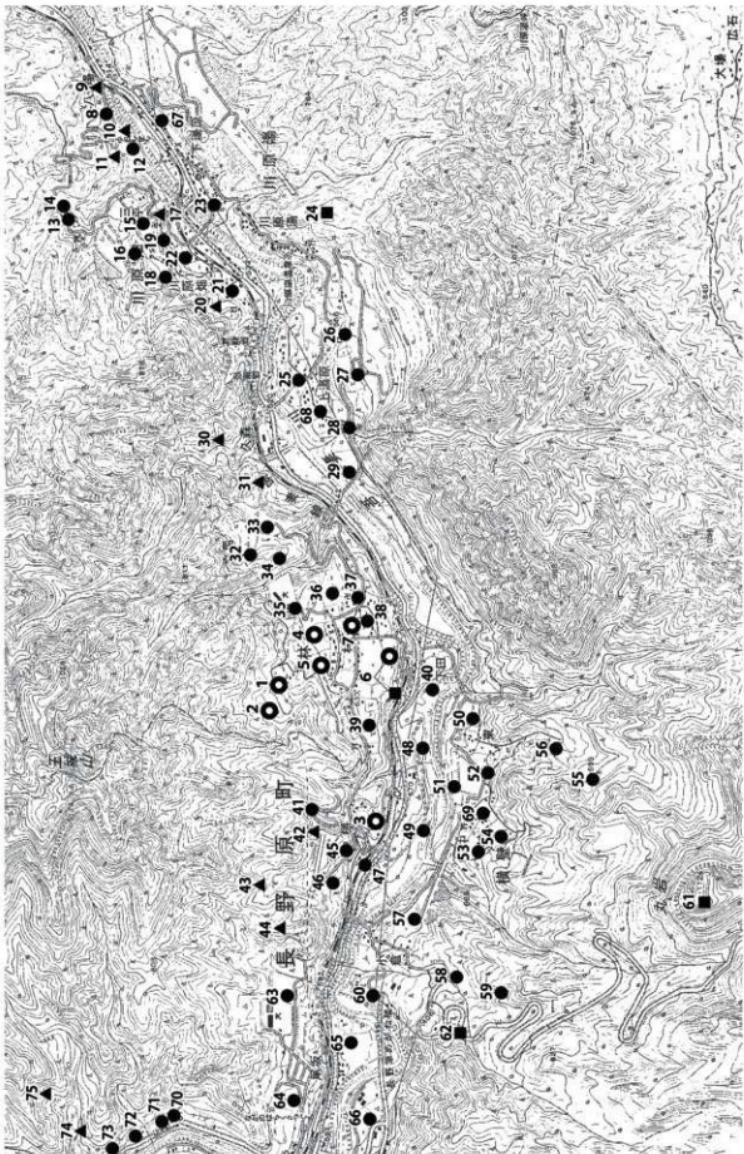
### （7）近世

江戸幕府成立後も継続して沼田真田氏が吾妻地域を支配した。真田氏は信州上田あるいは松代と沼田を結ぶ交通網の整備に力を入れた。また近世には草津温泉の湯治客や善光寺の参詣客の増加などにより、街道の要所には宿場が形成された。こうした街道は、「真田道」や「草津道」などと総称されている。

元和元（1681）年の改易によりこの地域の大部分は幕府領や旗本領といつたいわゆる天領となり、明治維新までその体制が続いた。そして明治22（1889）年の1町6村による町村合併により林村から長野原町となり現在に至る。

さて、当地域の近世遺跡の多くが天明3（1783）年における浅間山噴火に伴う泥流堆積物で埋没したものである。民家跡としては東宮遺跡（第10図22）、西宮遺跡（第10図21）、石川原遺跡（第10図25）、下田遺跡（第10図40）、榆木I遺跡（第10図45）、尾坂遺跡、小林家屋敷跡が挙げられる。このうち東宮遺跡では建物跡・烟跡・道路・溝・石垣などがまとまって検出された。建築部材や漆器などの生活用具が良好な遺存状態で出土し、当地域の屋敷景観を考える上で注目される。小林家屋敷跡では当時の分限者小林助右衛門の屋敷の一部が調査され、文献との照合もなされている。横壁中村遺跡では江戸時代前期の建立とされる觀音堂跡が調査され、併せて礫石経も多量に出土した。また事業団調査の林中原I・II遺跡や、道を挟んで東側に位置する東原I・II・III遺跡でも、中世～近世と考えられる掘立柱建物跡が検出されている。生産遺跡としては烟跡が多く検出されており、西ノ上遺跡（第10図23）、川原湯勝沼遺跡、下田遺跡、下原遺跡、中棚II遺跡（第10図49）、尾坂遺跡、久々戸遺跡、町遺跡、二反沢遺跡などが挙げられる。これらの烟跡の自然科学分析によれば主にイネ・ムギ・アワ・ヒエあるいはソバなどの栽培が行われていた可能性が示されているが、肥料として用いられていた可能性も指摘されている。発掘調査においては西ノ上遺跡でアワかヒエと考えられる植物痕跡が、久々戸遺跡ではアサの可能性がある植物遺体が出土し、中棚II遺跡ではサトイモの栽培が確認されている。墓坑も各遺跡で調査されているが、特に上ノ平I遺跡では人骨を伴う墓坑群が調査され、当時の埋葬事例が窺える資料となっている。街道については発掘調査では久々戸遺跡で草津道と推定される道路跡、長野原一本松遺跡で真田道の一つである道陸神峠道が、共にほぼ現道下で確認されている。

第10図 溝跡の位置と周辺の地質(1/25,000)

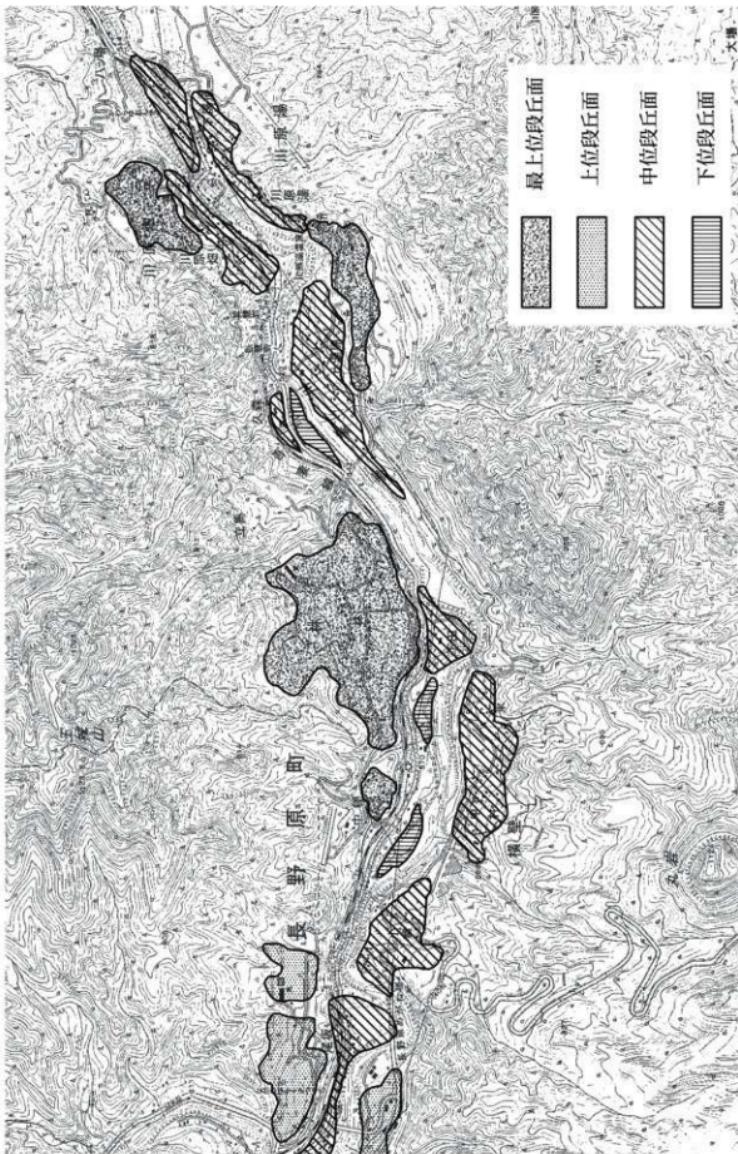


第5表 周辺の遺跡

No.	遺跡名	町No.	種別	時代	概要	備考	
1	上原Ⅱ遺跡	42	散布地	平安	平成18・23年度調査(町)、平成16年度調査(事) 織文中期初頭堅六穴道模、土坑。平安階下穴。	文献2,14,92	
2	上原Ⅲ遺跡	43	散布地	平安	平成18・23年度調査(町) 織文中期後半包含層。弥生中期土坑。平安治工房、住居跡、堆土遺構、陥し穴。	文献2,14	
3	中郷Ⅰ遺跡	49	散布地	織文・平安	平成18・23年度調査(町)、平成11年度調査(事) 織文早期包含層。平安住居跡4軒、黒曜石片、チャート片出土。	文献2,14,43,87 旧中郷遺跡	
4	上原Ⅰ遺跡	41	散布地	織文・平安・近世	平成18・23・24年度調査(町)、平成9・24年度調査(事) 織文早期包含層。古墳期後半住居跡、中期後半住居跡、弥生前期末土坑。吉備須住居跡、中期土坑。平安住居跡、陥し穴等。	文献2,14,43,85,100	
5	上原Ⅳ遺跡	44	散布地	織文・近世	平成14・18・20・24年度調査(事)、平成15年度調査(事) 織文中期初期堅土坑、後期散石住居跡、配石道模、晚期・弥生包含層。古墳期後半土坑、後期散石住居跡、平安住居跡、近世溝、下駄、曲物の底、墨具、石鉢、陶器等が出土。	文献2,8,14,16,57,76,91	
6	林中原Ⅰ遺跡	45	集落跡	城跡	織文・平安・中世・近世	昭和37年発見(群大)、平成14~22年(群大)、平成16・20・21年度調査(事) 織文中期後半・近後の堅土坑集落。織文中期後半住居・土坑。中世「林中原」、鶴穴状道模、区画溝、掘立柱建物群。	文献1,2,8,12~16,39,40 92,96,97 旧中原Ⅰ遺跡
7	林中原Ⅱ遺跡	46	散布地	織文・平安・中世・近世	平成15・19・21・22年度(町)、平成16・20・21年度調査(事) 織文中期後半・後期の堅土坑集落。基坑8基、弥生前中期～中期前半土坑、再現墓基、中期前半住居跡4軒。中世掘立柱建物群。	文献2,10~15,18,19,92,96,97 旧中原Ⅰ遺跡	
8	石塙遺跡	210	散布地	織文・弥生・近世	散布地 織文・弥生・近世	平成7・9・10・10年度調査(事)、弥生後期土坑。近世煙。	文献2,43,83,85,86
9	石塙Ⅰ岩塙	9	墓その他	織文	昭和53年調査(県)	織文中期包含層。弥生後期土坑。近世煙。	文献2,28,39,31,32,34
10	石塙Ⅱ岩塙	10	その他	不明	織文	岩塙遺跡。	文献2
11	二社平割跡	11	その他	不明	織文	岩塙遺跡。	文献2
12	二社平遺跡	209	散布地	織文・弥生・平安・近世	平成8・10年度調査(事) 弥生後期土器片。近世煙。	文献39,74,76	
13	温井Ⅰ遺跡	2	散布地	織文・平安	温井Ⅰ遺跡	文献2	
14	温井Ⅱ遺跡	2	散布地	織文	中世。	文献3	
15	三平Ⅰ遺跡	3	集落跡	織文・弥生・平安・近世	平成10・16・17・18・24年度調査(事)、平成20年度調査(町) 塚崎地区中期住居跡、織文時代中期後半～後期中晩の土坑。亦は中期中期初期堅土坑のうちの1つ。堅土坑の坪型埴輪土器も出土している。平安時代の堅土坑6軒、堅穴住居跡、近世の掘立柱建物跡。平引金具をはじめとして、各時代とも長野県域と共通性が認められる。	文献2,16,23,43,54,86,92,93,100	
16	三平Ⅱ遺跡	4	集落跡	織文・平安	平成16年度調査(事) 織文中期～前期の土器・石器を多量に出土。堅土坑建物跡7棟ほか、中世中期堅土坑1カ所。	文献2,54,92	
17	三ヶ堂割跡	12	その他	不明	三ヶ堂割遺跡。	文献2	
18	上ノ平Ⅰ遺跡	5	集落跡	平安	平成18・19年度調査(事) 織文中期～後期初頭住居跡16軒、堅土坑34基。平安後期10軒を検出。皇朝才二銭の貞觀永宝が出土。	文献2,37,62,94,95	
19	上ノ平Ⅱ遺跡	6	散布地	不明	チャート片出土。	文献2	
20	西宮岩跡	13	その他	不明	岩塙遺跡。	文献2	
21	西宮遺跡	7	散布地	織文・近世	小屋と堅土坑を検出。	文献2,96	
22	東宮遺跡	208	その他	近世	平成12年度調査(事)、7・9・19～21年度調査(事) 天明泥流で埋没した民家。それを作った建物跡、塙跡等を検出。	文献6,43/27,48,85,95,96	
23	西ノ上遺跡	212	その他	近世	平成18年度調査(事)、14年度調査(事) 天明泥流で埋没した塙跡、道路等。	文献14,45,90	
24	金花山龜跡	207	城跡	中世	平成12年度調査(事)・事) 明治期の「川原湯真園」に「トリアト」の定義あり。	文献2,96	
25	石川原遺跡	17	散布地	織文	平成20年度調査(事) 織文中期後半～後期を中心とする堅土坑集落跡。	小入遺跡(No.20)と結合	
26	川原瀧中原Ⅰ遺跡	16	散布地	織文	平成19年度調査(町) チャート片出土。	文献2,15 旧中原Ⅰ遺跡	
27	川原瀧中原Ⅱ遺跡	18	散布地	織文	平成17年度調査(町)	文献2,13 旧中原Ⅱ遺跡	
28	川原瀧中原Ⅲ遺跡	19	散布地	織文・平安	織文中期：チャート片出土。	文献2 旧中原Ⅲ遺跡	
29	川原瀧勝沼遺跡	206	散布地	織文・平安・近世	平成9・15・16年度調査(事) 織文中期堅土坑2基。平安往居跡3軒、天明泥流で埋没した塙跡。	文献43,47,85,91,92	
30	久森沢Ⅰ削壁群	53	その他	不明	岩塙遺跡、削壁3カ所にわたる。	文献2	
31	久森沢Ⅱ削壁群	54	その他	不明	岩塙遺跡。	文献2	
32	立馬Ⅰ遺跡	37	集落跡	織文・弥生・基その他	平成13・14・17年度調査(事) 織文早期前半住居跡2軒、包含層物多数、晚期住居跡1軒。弥生中期住居跡2軒、堅根基。平安往居跡3軒、3軒ほか。縄文～平安の堅土坑で6軒を数個検出。	文献2,1,52,89,90,93 旧立馬遺跡	
33	立馬Ⅱ遺跡	213	集落跡	織文・弥生・平安	平成14年度調査(事) 織文中期初期～後半住居跡11軒。織文早期包含層物、縄文～平安堅土坑で6軒を数個検出。	文献49,90	
34	立馬Ⅲ遺跡	215	集落跡	織文・平安	平成16・17・18・19年度調査(事) 平安往居跡3軒、陥し穴多数検出。	文献6,49,95	
35	花畠遺跡	205	集落跡	織文・平安	平成10年～12年度調査(事) 平安往居跡3軒、陥し穴多数検出。	文献2,43,86～88	
36	東原Ⅰ遺跡	38	散布地	織文・平安・近世	平成17・18・19・20年度調査(事) 平安往居跡3軒。織文前期～中期後半陥し穴、土坑、平安往居跡。	文献2,13,14,24,71,96	
37	東原Ⅱ遺跡	39	散布地	織文	平成20年度調査(事) 織文後期土器片、黒曜石片出土。	文献2,43,71,96	
38	東原Ⅲ遺跡	40	散布地	平安・近世	平成15・18年度調査(事)・20・21年度調査(事) 近世堅土坑1カ所。土坑、ビット検出。	文献2,10,14,71,96	

39	林宮原遺跡	48	集落跡	縄文・古墳・平安	平成 14 ~ 16・18 ~ 20・24 年度調査（町）、24 年度調査（事）縄文中期～後期住居跡 1 軒。平安住居跡 11 軒。土坑。中世近世獨立柱建物跡。	文献 1.2.8.10 ~ 12.14 ~ 16.20.24.100 「高須路地区」No.3127 旧宮原遺跡「神社新道跡」
40	下田遺跡	47	集落跡 その他	縄文・近世	平成 6・7・9 年度調査（事）天明泥流で埋没した民家。堆跡。	文献 2.43.82.85 「高須路地区」No.3126 旧下田（下田）遺跡
41	二反沢遺跡	52	社寺 その他	中世・近世	平成 12 年度調査（事）中世の石垣を伴う土坑ほか。鍛冶関連遺物。近世の堆跡を検出。	文献 2.50.88 「高須路地区」No.3124 旧大原院堂跡
42	瀧沢數百岩遺跡	55	その他	不明	岩場道路。「瀧沢數百」の掌字と石仏群。	文献 2
43	峰ヶ澤山遺跡	56	その他	縄文	岩場道路。打製石斧出土。	文献 2
44	御懸山石塙	57	その他	不明		文献 2
45	楠木 I 遺跡	50	散布地	縄文・平安	平成 21 年度調査（事）平安住居跡 4 軒、かまと屋 1 軒、土坑 62 基、匕首 1 件、江戸磁石建物跡 1 棟等。	文献 2.7.6.97 「高須路地区」第 4 条、集石 4 基、集石 2 基、江戸磁石建物跡 1 棟等。
46	楠木 II 遺跡	51	集落跡	縄文・平安・ 中世・近世	平成 12 年度調査（町）、12・13・16・17 年度調査（事）縄文早期前半 時代住居跡 31 軒、中期後期住居跡 3 軒、中期初期住居跡 2 軒、平安 住居跡 38 軒。「三家」の墨書き石、刻字「町」をもつ石製防護車出土。 中世の独立柱建物跡検出。	文献 2.6.43.58.65.88.89. 92.93
47	楠木 III 遺跡	202	散布地	縄文・弥生・ 平安・中世	平成 10 年度調査（事）縄文前～後期、弥生中期：包含層。	文献 43.86
48	下原遺跡	204	集落跡 その他	縄文・弥生・ 古墳・平安・ 中世	平成 12・13・15・16 年度調査（事）古墳後期住居跡 1 軒、平安住居 跡 1 軒。中世の屋敷跡 1 カ所。中世～近世の堆跡 3 面を検出。	文献 2.43.44.53.88.89. 91.92
49	中郷 II 遺跡	203	その他	近世	平成 11～13・15 年度調査（事）天明泥流で埋没した堆跡、および安 永水害と考えられる埋没堆跡。	文献 2.43～45.87～89. 91
50	横壁勝沼遺跡	23	集落跡 墓その他	縄文・弥生・ 平安・中世・ 近世	平成 6～7 年度調査（事）縄文土坑数基、梯形先尖頭器 1 点表採。平 成 21 年度調査（事）平安住居跡 1 軒を検出。	文献 1.2.43.2.83 「高須路地区」No.3118 横壁沼遺跡（東平遺跡）
51	横壁中村遺跡	24	集落跡 墓その他 その他	縄文・弥生・ 平安・中世・ 近世	平成 8～18 年度調査（事）縄文中期後半～後期を中心とした拠点集落 跡、平安住居跡も含めて 250 軒以上を検出。中世獨立柱建物跡、礎 石建物、土坑墓、塚など多数検出。	文献 2.7.44.46.48.51.55. 60.62.64.66.70.73.81. 84～94 「中野上 II 遺跡」
52	山根 I 遺跡	26	散布地	平安		文献 1.2 「高須路地区」No.3118 山根 I 遺跡 (中野上 II 遺跡)
53	山根 II 遺跡	29	集落跡	縄文・弥生・ 平安・近世	平成 16～17 年度調査（町）、平成 10・13・18 年度調査（事）縄文中 期後半住居跡 3 軒、土坑 39 基。中世の満 1 条ほか。	文献 2.12.13.43.83.86.89. 92
54	山根 IV 遺跡	30	散布地	縄文・平安	平成 19 年度調査（町）縄文中期：チャート片出土。	文献 2.15
55	上野 I 遺跡	21	散布地	縄文・平安		文献 2
56	上野 II 遺跡	22	散布地	縄文・平安		文献 2
57	西久保 I 遺跡	31	集落跡	縄文・弥生・ 平安・中世・ 近世	平成 6・10・12 年度調査（事）縄文中期末葉の敷石住居跡、水場遺構等。	文献 2.43.82.86.88
58	西久保 II 遺跡	32	散布地	平安		文献 2
59	西久保 III 遺跡	33	散布地	不明		文献 2
60	西久保 IV 遺跡	216	その他	縄文・平安・ 近世	平成 17 年度調査（町）。平成 12・21・23 年度調査（事）縄文後期 葉延立柱建物跡 2 棟。平安時代住居跡 1 軒、焼土造構 1 基、天明泥流 に埋没した堆跡、泥流の末端を確認。道路・溝・円形平坦面。	文献 13.88.97.99
61	丸堀城跡	34	城館跡	中世	土塁や水場が遺存。	文献 1.2.27.30
62	柳沢城跡	35	城館跡	中世	縄文・繩文・平安・4.5 年度調査（町）：郭跡、堀切、土塁、礎石、縄文輪 状石造構、溝、陶器類、鉄製品、銅製品、石臼等を検出。	文献 1.2.3.27.30～32
63	幸神遺跡	62	集落跡 その他	平安・中世	平成 21 年度調査（町）。平成 8・9・14・17 年度調査（事）縄文中期 中期住居 2 軒、土坑、階穴、古代の可能性のある堆跡。	文献 2.19.57.84.85.90.93
64	長野原本一松遺跡	63	集落跡	縄文・弥生・ 古墳・平安・ 中世・近世	平成 22 年度調査（町）。平成 6～20 年度調査（事）縄文中期後半～ 後期の住居跡を中心とする拠点集落跡。平安住居跡、中世獨立柱建 物跡多数検出。	文献 1.2.16.42.56.59.63. 66.77.79.82.96 「中野本一松遺跡」
65	尾坂遺跡	201	その他	近世	平成 23 年度調査（町）。平成 6・7・11・18～23 年度調査（事）天 明泥流で埋没した民家と麻袋、満等を検出。畑下から縄文中期後半住 居跡、後期土坑。弥生前期末兩幕墓・土坑。平安住居跡、中世獨立柱 建物跡等。	文献 43.75.82.83.87.94 ～99
66	久々戸遺跡	200	その他	縄文・近世	平成 19 年度調査（町）。平成 9～12・14・15 年度調査（事）天明泥流 で埋没した堆跡、建物跡。縄文土器等包含層。	文献 15.31.41.44.45.82 ～88.90.91
67	下原原遺跡	217	不明	中・近世	試掘。	文献 74.9 に表として記載。
68	北入遺跡	20	散布地	不明	チャート片、石英採集。	文献 2
69	山根 II 遺跡	28	散布地	平安・江戸		文献 2
70	東見淵 I 遺跡	64	散布地	縄文		文献 2
71	東見淵 II 遺跡	65	散布地	縄文		文献 2
72	東見淵 III 遺跡	66	散布地	縄文	平成 24・25 年度調査（町）チャート片採集。近世天明塙 3 枚。	文献 2.24.25
73	貝瀬 I 遺跡	67	散布地	縄文・平安	石斧採集。	文献 2
74	居瀬以岩跡群	80	その他	縄文・弥生	剝離 4 カ所にわたる。	文献 2
75	ガン沢剝離	79	その他	不明		文献 2

第11図 通跡周辺の河岸段丘面分布図(1/25,000)



## 参考文献（第5表の文献番号に対応）

番号

- 長野原町 1976『長野原町』上巻
- 長野原町教育委員会 1990「長野原町の遺跡一町内道路詳細分布調査一」長野原町埋蔵文化財調査報告第1集
- 長野原町教育委員会 1995「柳沢城跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第5集
- 長野原町教育委員会 1996「弓削遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第4集
- 長野原町教育委員会 2000「下井遺跡Ⅱ」長野原町埋蔵文化財調査報告第7集
- 長野原町教育委員会 2002「町内道路Ⅰ」長野原町埋蔵文化財調査報告第9集
- 長野原町教育委員会 2003「町内道路Ⅱ」長野原町埋蔵文化財調査報告第10集
- 長野原町教育委員会 2003「町内道路Ⅲ」長野原町埋蔵文化財調査報告第11集
- 長野原町教育委員会 2005「小林家屋敷跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第12集
- 長野原町教育委員会 2004「町内道路Ⅳ」長野原町埋蔵文化財調査報告第13集
- 長野原町教育委員会 2004「林宮原遺跡Ⅱ」長野原町埋蔵文化財調査報告第14集
- 長野原町教育委員会 2005「町内道路Ⅴ」長野原町埋蔵文化財調査報告第15集
- 長野原町教育委員会 2006「町内道路Ⅵ」長野原町埋蔵文化財調査報告第16集
- 長野原町教育委員会 2008「町内道路Ⅶ」長野原町埋蔵文化財調査報告第17集
- 長野原町教育委員会 2009「町内道路Ⅷ」長野原町埋蔵文化財調査報告第18集
- 長野原町教育委員会 2010「町内道路Ⅸ」長野原町埋蔵文化財調査報告第19集
- 長野原町教育委員会 2010「林中原Ⅰ遺跡Ⅹ」長野原町埋蔵文化財調査報告第20集
- 長野原町教育委員会 2011「町内道路Ⅹ」長野原町埋蔵文化財調査報告第21集
- 長野原町教育委員会 2012「町内道路Ⅺ」長野原町埋蔵文化財調査報告第22集
- 長野原町教育委員会 2012「林宮原遺跡Ⅸ」長野原町埋蔵文化財調査報告第23集
- 長野原町教育委員会 2013「白井Ⅱ遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第24集
- 長野原町教育委員会 2013「町内道路Ⅺ」長野原町埋蔵文化財調査報告第25集
- 長野原町教育委員会 2013「三平Ⅰ遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第26集
- 長野原町教育委員会 2013「町内道路Ⅻ」長野原町埋蔵文化財調査報告第27集
- 長野原町教育委員会 2014「町内道路Ⅼ」長野原町埋蔵文化財調査報告第28集
- 小池富治郎編 1936『吾妻郡誌』吾妻教育学会
- 山崎一・山口武一 1972『吾妻郡城史』
- 中隣之 1979『石道跡探査』長野原町教育委員会・高崎鉄道管理局
- 群馬県 1988『群馬県史』資料編
- 群馬県教育委員会 1988『群馬県の中世城館跡』
- 上毛新聞社 1999『群馬県遺跡大辞典』
- 笠懸野岩宿文化資料館 2000『20年企画展「利根川流域の繩文草創期』
- かみつけの里博物館 2000『第6回特別企画について考える』
- 原田昌幸 2007『日本の美術 No.95 繩文土器 草創期 早期』至文堂
- 石田真 2004『群馬県北西部における隠し穴の構築時期をめぐって—長野原町の事例を中心として—』『研究紀要 22』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 藤巻幸男 2007『縄文時代中期の住居内施設について—越後中村遺跡発見』『研究紀要 25』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 山口逸弘 2009『上ノ平遺跡 31号住居跡出土土器の再検討』『研究紀要 27』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 橋本淳 2010『中部地方における縄文初期洗練紡土器の編年—八ヶ場ダム関連出土資料の位置付け—』『研究紀要 28』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 鈴木徳雄 2012『堀之内式土器研究の諸問題—堀之内式の概観と周辺諸型式』第25回縄文セミナー「縄文後期土器研究の現状と課題」(講文セミナーの会)
- 群馬大学教育学部 2004『高崎音吉著博士 調査収集考古古物・調査資料目録』雄山出版
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998『長野原・久々戸遺跡』県道長野原草津口停車場線道路(構築)建設に伴う理蔵文化財発掘調査報告書
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2002『長野原一本松遺跡』八ヶ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第1集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2002『八ヶ場ダム発掘調査集成(1)』八ヶ場ダム建設工事に伴う理蔵文化財発掘調査報告書 第2集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2003『久々戸遺跡・中堀Ⅰ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』八ヶ場ダム建設工事に伴う理蔵文化財発掘調査報告書 第3集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2004『久々戸遺跡(2)・中堀Ⅰ遺跡(2)・西ノ上遺跡・上郡A遺跡』八ヶ場ダム建設工事に伴う理蔵文化財発掘調査報告書 第4集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2005『横壁中村遺跡(2)』八ヶ場ダム建設工事に伴う理蔵文化財発掘調査報告書 第5集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2005『川原湯湧出遺跡(2)』八ヶ場ダム建設工事に伴う理蔵文化財発掘調査報告書 第6集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2006『横壁中村遺跡(3)』八ヶ場ダム建設工事に伴う理蔵文化財発掘調査報告書 第7集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2006『立馬Ⅱ遺跡』八ヶ場ダム建設工事に伴う理蔵文化財発掘調査報告書 第8集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2006『上郷B遺跡・廣石A遺跡・二反沢遺跡』八ヶ場ダム建設工事に伴う理蔵文化財発掘調査報告書 第9集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2006『横壁中村遺跡(4)』八ヶ場ダム建設工事に伴う理蔵文化財発掘調査報告書 第10集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2006『立馬Ⅰ遺跡』八ヶ場ダム建設工事に伴う理蔵文化財発掘調査報告書 第11集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2007『下原遺跡II』八ヶ場ダム建設工事に伴う理蔵文化財発掘調査報告書 第12集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2007『三平Ⅰ・Ⅱ遺跡』八ヶ場ダム建設工事に伴う理蔵文化財発掘調査報告書 第13集

55. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2007 『横里中村遺跡（5）』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第14集
56. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2007 『長野原一本松遺跡（2）』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第15集
57. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2008 『幸神遺跡・上原IV遺跡・山根III遺跡（2）』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第16集
58. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2008 『榎木II遺跡（1）』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第18集
59. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2008 『長野原一本松遺跡（3）』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第19集
60. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2008 『横里中村遺跡（6）』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第20集
61. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2008 『横里中村遺跡（7）』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第22集
62. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2008 『上ノ平I遺跡（1）』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第23集
63. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2008 『長野原一本松遺跡（4）』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第24集
64. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2009 『立馬笛遺跡』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第26集
65. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2009 『榎木II遺跡（2）』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第27集
66. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2009 『長野原一本松遺跡（5）』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第28集
67. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2009 『横里中村遺跡（8）』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第29集
68. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2009 『横里中村遺跡（9）』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第30集
69. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2010 『横里中村遺跡（10）』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第33集
70. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2010 『横里中村遺跡（11）』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第34集
71. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2010 『東原I・II・III遺跡』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第35集
72. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2011 『東宮遺跡（1）』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第36集
73. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2012 『横里中村遺跡（12）』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第37集
74. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2012 『東宮遺跡（2）』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第38集
75. 群馬県・公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2012 『「櫛道跡」社会資本整備総合交付金事業（活力創出基盤整備）長野原草津口駅舎付』に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第546集
76. 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2012 『榎木I遺跡／上原IV遺跡（2）／西久保IV遺跡』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第39集
77. 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2013 『長野原一本松遺跡（6）』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第40集
78. 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2013 『横里中村遺跡（13）』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第41集
79. 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2014 『長野原一本松遺跡（7）』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第42集
80. 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2014 『林中原I遺跡・長野原城』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第43集
81. 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2014 『横里中村遺跡（14）』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第44集
82. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1995 『年報14』
83. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1996 『年報15』
84. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1997 『年報16』
85. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998 『年報17』
86. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999 『年報18』
87. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000 『年報19』
88. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001 『年報20』
89. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『年報21』
90. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003 『年報22』
91. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004 『年報23』
92. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005 『年報24』
93. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006 『年報25』
94. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007 『年報26』
95. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008 『年報27』
96. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009 『年報28』
97. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010 『年報29』
98. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2011 『年報30』
99. 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2012 『年報31』
100. 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2013 『年報32』

- 杉原莊介 1967 「群馬県岩櫃山における弥生時代の墓址」『考古学集刊』3-4
- 上野佳也・三上次男 1968 『軽井沢町茂沢南石堂遺跡』
- 土屋長久 1970 「信濃町長倉牧場にある上代牧場遺構」『長野県考古学会誌9号』長野県考古学会
- 吾妻町教育委員会 1979 「金村梅寺等道路」
- 群馬県教育委員会 1980 「信州街道」
- 中之条町教育委員会 1982 「天代瓦窯道路」
- 長野県史刊行会 1982 「長野県史 考古資料編」
- 群馬県教育委員会 1983 「吾妻の諸街道」
- 長野市教育委員会 1984 「箱清水道路(2)」長野市の埋蔵文化財 第15集
- 月夜野町教育委員会 1985 「月夜野古窯跡群」
- 藤岡市教育委員会 1986 「C-11 沖ノ道跡」
- 松井田町教育委員会 1986 「入山峠」松井田町文化財調査報告書 第1集
- 群馬県教育委員会 1988 「史跡上野国分寺跡発掘調査概要8」
- 長野県史刊行会 1989 「長野県史 通史編 第1巻」
- 御代田町教育委員会 1990 「聖原Ⅱ道跡」御代田町埋蔵文化財発掘調査報告書 第9集
- 佐久市教育委員会 1991 「立科F道跡」佐久市埋蔵文化財調査報告書第5集
- 群馬県史編纂委員会 1991 「群馬県史 通史編2 原始古代」
- 長門町教育委員会 1991 「鷹山遺跡群Ⅱ」
- 更埴市教育委員会 1992 「史跡 森将軍塚古墳」
- 真田町教育委員会 1992 「真田氏御跡」
- 丸子町誌編纂委員会 1992 「丸子町誌 歴史資料編」
- 小諸市教育委員会 1993 「郷上」
- (財)長野県埋蔵文化財センター 1992 「大室古墳群」(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 13
- 吾妻町教育委員会 1993 「宿道跡」
- 和田村教育委員会 1993 「長野県黒耀石原産地道路分布調査報告書(和田峠・男女倉谷)Ⅲ」
- 御代田町教育委員会 1994 「塙田道跡」御代田町埋蔵文化財発掘調査報告書 第18集
- 上田市教育委員会 1997 「史跡 上田城跡」上田市文化財調査報告書 第60集
- 中野市教育委員会 1997 「長野県中野市栗林遺跡発掘調査報告書」
- 松井田町道路調査会 1997 「横川大林道跡・横川の反道跡・原道跡・西野改小山平道跡」
- 国道406号線倉渕村三ノ倉落合道跡調査会 1997 「三ノ倉落合道跡」
- 赤城村教育委員会 1998 「旧敷島村の遺跡」赤城村考古資料図録II
- 永峯光一 1998 「民野県小諸市 水道跡発掘調査資料図録」
- 御代田町誌編纂委員会 1998 「御代田町誌 歴史編上」
- 佐久市教育委員会 1999 「ガラス質黑色安山岩高地道路 八幡山遺跡群」佐久市埋蔵文化財調査報告書 第75集
- 高崎市史編纂委員会 1999 「新編 高崎市史 資料編I 原始古代」
- 千俣前田遺跡調査会・嬬恋村教育委員会 1999 「千俣前田Ⅰ・Ⅱ道跡」
- 千俣前田遺跡調査会・嬬恋村教育委員会 1999 「千俣前田Ⅲ道跡」
- 千俣前田遺跡調査会・嬬恋村教育委員会 2000 「千俣前田Ⅳ道跡」
- 群馬県立歴史博物館 2001 「古代の道一探検! 東山道駅路一」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 「白井大宮Ⅱ道跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書 第301集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004 「新田西沢・新田平林道跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書 第334集
- 上田市立信濃國分寺資料館 2006 「古代信濃と東山道諸国の中分寺」
- 佐久市教育委員会 2006 「羅石乃石器群・駒込貝岩産地道路 天神小根道跡」佐久市埋蔵文化財調査報告書 第136集
- 長和町教育委員会 2008 「報復・鷹山道跡群4」
- (財)長野県埋蔵文化財センター 2012 「中野市柳沢遺跡」(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 100
- (財)長野県埋蔵文化財センター 2013 「中野市千田遺跡」(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 98

